
令和 6 年度 事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

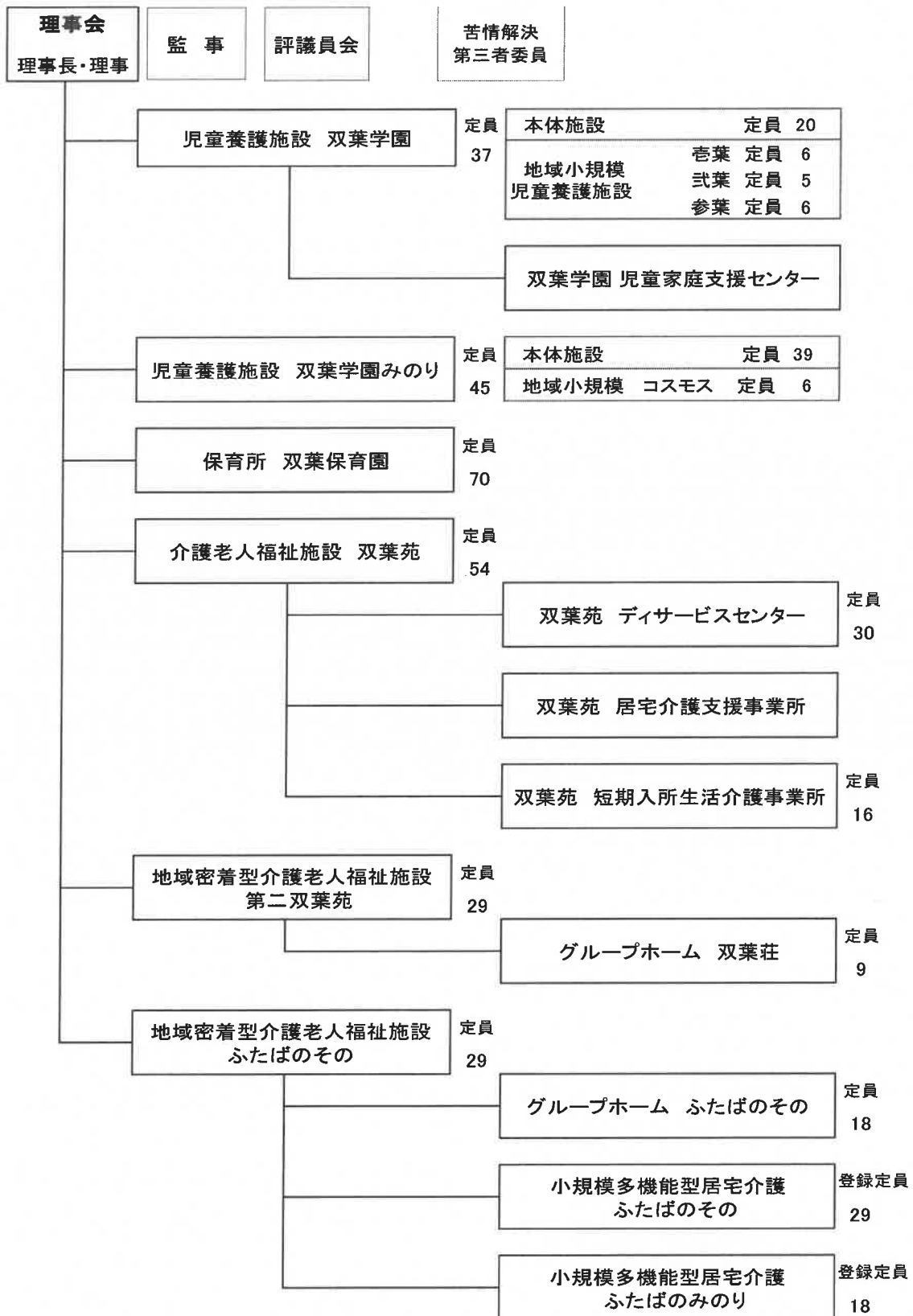
目 次

	社会福祉法人 双葉会 組織図	・・・ 1 頁
1	概要	・・・ 2 頁
2	施設の利用状況	・・・ 8 頁
3	事業計画の取組結果	・・・ 13 頁
4	理事会・評議員会の開催状況	・・・ 52 頁
5	行事等の実施状況	・・・ 55 頁
6	事故及びヒヤリハットの状況	・・・ 68 頁
7	苦情及び要望の状況	・・・ 70 頁
8	各種会議の開催状況	・・・ 74 頁
9	各種委員会の活動状況	・・・ 79 頁
10	職員研修の実施状況	・・・ 94 頁
11	施設整備の状況	・・・ 105 頁

令和7年6月
社会福祉法人 双葉会

社会福祉法人 双葉会 組織図

令和7年4月1日現在



1 概 要

(1) マネジメントサイクルに沿った経営

社会福祉法人「双葉会」は昭和20年9月に前身である戦災孤児収容所を設立し、昭和28年10月に設立認可を受けた歴史のある法人です。

「地域に根ざした福祉サービスを提供いたします。」をモットーに地域の福祉の核として、子供から年長者までのトータルな福祉サービスを提供しています。

令和6年度は、4年度に策定した中長期計画の最終年度です。児童・利用者等のニーズや各事業所の課題に対応した事業計画を策定し、計画に基づき事業を推進することにしました。

その結果、PDCAのマネジメントサイクルによる事業の推進は定着しつつあり、計画通りに事業が進められ、概ね事業目的が達成されました。なお、一部、達成までに至らなかった計画や頓挫した計画がありました。

主な、原因としては、事業推進に当たっての、Cの評価（年度途中での振り返りや見直し）がきちんと行われていないことにあります。PDCAは施設長のみが行うのではなく、組織活動のあらゆる階層や職種で展開され、Cは、日常の業務活動を実施している職場や職員個人として評価を行なうものです。計画と実行の段階における情報収集を十分に行ない、評価を行えば（評価がうまくいけば）実効性のある改善策が打ち出せます。不十分な評価で改善を行なってもよい結果にはなりません。

今一度、管理職や職員がそれぞれの立場でPDCAを徹底することが必要です。

(2) 利用者数について

ア 児童養護施設の双葉学園は、令和5年度から定員37人でスタートしました。被措置児童数は、双葉学園が月平均33.4人（充足率90.2%）、双葉学園みのりは、定員45人で月平均42.6人（充足率94.6%）となりました。施設のケア単位の小規模化は必要ですが、これ以上定員の切り下げがないよう、一時保護の積極的な受け入れを行うことが必要です。

また、両施設の措置児童のうち70.0%がいわゆる被虐待児です。なお、「新しい社会的養育ビジョン」を受け、出来る限り良好な家庭的環境で養育するため小規模かつ地域分散化を進め、双葉学園3か所、双葉学園みのりは1か所の地域小規模児童養護施設の経営を行っています。

今後も、地域の社会的養育を支える専門的な拠点として、職員の育成や確保に努めていきます。

初日在籍者数(年度平均)

	在籍者数				利用率(%)			
	3年度	4年度	5年度	6年度	3年度	4年度	5年度	6年度
双葉学園	26.8	31.2	35.3	33.4	59.4	69.2	95.4	90.2
双葉学園みのり	36.9	39.5	43.2	42.6	82	87.7	95.9	94.6

イ 児童家庭支援センターの相談実人数は、386人でほぼ横ばい状況です。北九州市が「わいわい子育て相談（子どもの心やからだ発達や子育ての不安に関する相談（センターも参加））」を実施していますが、相談希望者が多く、市で相談に対応できない方の相談を引き続き受けています。

養育困難と言った養護に関する相談が50.8%、育成に関する相談が18.3%です。また、「わいわい子育て相談」を受け、発達相談が増えています。育成に関する相談のうち、不登校は減少しました。

引き続き、相談者へ助言等を行い、地域の児童、家庭の福祉の向上を図ります。

相談件数

	相談実人数				相談延件数			
	3年度	4年度	5年度	6年度	3年度	4年度	5年度	6年度
児童家庭支援センター	573	318	401	386	3,181	1,931	1,850	1,820

ウ 双葉保育園は、令和6年4月は、入園児57名でスタートし、半年後は65名までになりましたが、以後、新規入園は無く、結果的に利用率は69.2%で、低下しました。園児の確保のため、ホームページやSNSを活用した情報発信をすすめ、施設の認知に努めます。また、職員の確保も図ります。

多様化する保育ニーズに対応するための延長保育や障害児保育を実施しました。今後も、多様なニーズに応えながら、子どもの健やかな成長を支える質の高い保育を提供するとともに、保育所の機能を生かした地域の子育て支援を行います。

初日在園者数(年度平均)

	在園者数				利用率(%)			
	3年度	4年度	5年度	6年度	3年度	4年度	5年度	6年度
双葉保育園	85.2	83.2	70.1	62.3	94.6	92.4	77.8	69.2

エ 高齢者施設の利用率は、従来型の特養「双葉苑」は、91.0%で、ユニット型の「第二双葉苑」は96.3%、「ふたばのその」は81.3%です。「第二双葉苑」はコロナ禍前の利用率となりましたが、他の施設は、回復までには至っていません。

短期入所生活介護の利用率は84.6%で、4年度、5年度に続き上昇しています。

ディサービスセンターの利用率は63.6%で、回復の兆しが見えています。

グループホーム双葉荘（定員9人）の利用率は59.9%、グループホームふたばのその（定員18人）の利用率は64.6%で、令和5年度の全国平均（94.5%）よりかなり低く、営業戦略の再構築による利用者の確保が急務です。

小規模多機能居宅介護の利用率は特養と比べると低い状況です。「ふたばのその」の通所の利用率は56.4%、宿泊は41.5%です。「ふたばのみの

り」の通所の利用率は74.9%、宿泊は69.5%です。

高齢者施設は、措置施設と違い利用施設（契約施設）ですので、営業努力や質の高いサービスを提供することにより利用率の向上が見込まれます。引き続き感染症対策を徹底するとともに、魅力ある施設づくりを行い、利用率の向上に取り組めます。

延べ利用者数及び利用率（高齢者施設）

		延べ利用者数				利用率（%）			
		3年度	4年度	5年度	6年度	3年度	4年度	5年度	6年度
介護老人福祉施設									
双葉苑		18,642	17,618	18,333	17,940	94.5	89.3	92.7	91.0
双葉苑									
短期入所生活介護事業所		3,693	3,716	4,183	4,944	63.2	63.6	71.4	84.6
双葉苑									
ディサービスセンター		6,791	5,493	5,477	5,903	73.0	59.4	58.7	63.6
双葉苑									
居宅介護支援事業所		703	732	681	581				
地域密着型介護老人福祉施設									
第二双葉苑		9,987	8,913	10,160	10,195	94.3	84.2	95.7	96.3
グループホーム									
双葉荘		2,478	2,672	2,125	1,902	75.4	81.3	64.6	59.9
地域密着型介護老人福祉施設									
ふたばのその		9,464	8,723	9,081	8,615	89.4	82.4	85.5	81.3
グループホーム									
ふたばのその		5,980	5,223	3,978	4,249	91.0	79.4	60.3	64.6
小規模多機能型居宅介護	通所	4,394	3,909	4,572	3,711	66.8	59.4	69.3	56.4
	宿泊	1,222	1,029	1,304	1,220	41.8	35.2	50.8	41.5
	訪問	1,123	939	1,533	1,494				
ふたばのその									
小規模多機能型居宅介護	通所	2,864	2,746	2,680	3,283	65.3	62.6	61.1	74.9
	宿泊	1,424	1,057	1,148	1,523	65.0	48.2	52.4	69.5
	訪問	839	495	367	549				
ふたばのみのり									

(3) 社会福祉事業収支の状況

社会福祉事業の事業活動計算書による令和6年度のサービス活動収益（収入）は約15億1,605万円で、令和5年度に比べ5%増となりました。

サービス活動増減差額（本業（福祉サービス）での利益）は約8,742万円で5年度に比べ96万円の増で、5年度とほぼ同額です。

サービス活動増減差額比率（収益性）は、5.7%です。人件費は、5,776万円の増で、増加傾向が続いています。

定員という制度の仕組み上、収入は将来的には頭打ちとなります。今後も、新規利用者等の確保に取り組むとともに、利用者へ提供するサービスの質の向上のためにも加算の取得・維持に向けての努力を続けます。

また、事務事業を見極め、コストを削減し限られた財源を有効に活用します。

経営状況（社会福祉事業：事業活動計算書）

単位：万円、%

		法人計（社会福祉事業）					全国社福
		3年度	4年度	5年度	6年度	前年比	5年度
サービス活動収益 ①		130,361	133,582	144,150	151,605	105%	
サービス活動費用 ②		122,250	132,140	135,504	142,863	105%	
サービス活動増減差額 ①－②＝③		8,111	1,442	8,646	8,742	101%	
サービス活動収益対 サービス活動増減差額比率 ③/①		6.2	1.0	5.9	5.7	96%	2.4
サービス活動費用の内訳	人件費	88,112	96,561	99,180	104,956	105%	
	事業費	21,983	22,749	21,649	24,026	110%	
	事務費	7,662	8,342	10,292	9,915	96%	
	人件費率	67.5	72.2	68.8	69.2	100%	67.1

個別の施設で見ると、サービス活動増減差額比率（収益性）は、拠点区分では4区分がプラスで、双葉学園及び双葉学園みのりは、高い水準です。保育園や双葉苑、第2双葉苑はマイナス（いわゆる赤字）となりました。

サービス活動増減差額がマイナス（いわゆる赤字）は、サービス区分で見ますと、14事業所のうち6事業所となりました。（5年度は4事業所、4年度は8事業所）双葉保育園、特養：双葉苑、双葉苑：ディサービスセンター、双葉苑：居宅介護支援事業所、グループホーム双葉荘、特養：ふたばのそのです。特に、双葉保育園は、園児減による悪化が続いています

令和5年度の全国調査では、社会福祉法人全体の経営状況は、低下傾向が続いていたサービス活動増減差額比率が上昇し、赤字法人割合が縮小されました。具体的には、サービス活動増減差額比率が4年度に比べ0.7ポイント上昇し、2.4%となりました。それに伴い、令和2年度以降拡大が続いていた赤字法人割合は、前年度から4.8ポイント縮小し、30.5%となりました。

赤字施設（経常増減差額が0未満）の割合は、保育園23.1%、特養：従来型42.1%、特養：ユニット型31.1%、ディサービス43.9%、グループホーム36.0%、小規模多機能40.4%と、グループホームを除いて減少

しています。

黒字への転換施設は、処遇改善や物価高騰の影響により、人件費や経費をはじめとする費用は増加していたものの、それを上回る収益の増加により、結果的に増収増益となったものです。ポイントは、人件費に見合った収益の確保にあります。

公益性に根ざした事業活動を可能とするためには、適正な収益を確保し、安定的かつ自立した財務基盤の確立が必要です。財務指標に基づく経営分析等により、財務状況を把握し透明性の高い財務管理を行います。

各施設（拠点区分）経営状況（6年度）

単位：万円、%

		本部	双葉学園	双葉学園 みのり	児童家庭 センター	双葉保育 園	双葉苑	第二双葉 苑	ふたばの その その
サービス活動収益		0	32,630	31,782	1,130	9,948	31,192	17,065	27,858
サービス活動費用		1,000	26,937	24,888	1,016	11,197	32,781	18,005	27,040
サービス活動増減差額		▲ 1,000	5,693	6,894	114	▲ 1,249	▲ 1,589	▲ 940	818
(4年度)		▲ 846	1,912	5,536	4	▲ 1,737	▲ 430	693	3,606
サービス活動収益対 サービス活動増減差額比 率		(6年度)	17.4	21.6	10.0	▲ 12.5	▲ 5.0	▲ 5.5	2.9
		(5年度)	6.7	19.3	0.3	▲ 18.5	▲ 1.3	4.0	12.5
サービス活動 費用の内訳	人件費	728	19,203	18,848	952	8,789	22,903	12,402	21,131
	事業費	0	4,956	4,420	35	1,232	6,420	3,218	3,745
	事務費	239	2,213	1,370	28	886	2,736	1,221	1,222
	人件費率	—	58.8	59.3	84.2	88.3	73.4	72.6	75.8

5年度 経営実態調査（全国）

	保育所	従来型特 養	ユニット型特養
サービス活動収益対 サービス活動増減差額比率	5.3	1.6	4.9
人件費率	72.3	65.1	62.6

高齢者施設各サービス区分経営状況（6年度）

単位：万円、%

		双葉苑拠点区分				第二双葉苑拠点区分		ふたばのその拠点区分			
		特養・ 双葉苑	短期入所	デイサー ビス	居宅介護	特養・第 二双葉苑	グループ ホーム双 葉荘	特養・ ふたばの その	グループ ホームふた ばのその	小多・ ふたばの その	小多・ ふたばの みのり
サービス活動収益		20,379	5,134	4,922	755	14,447	2,617	11,861	5,982	5,865	4,149
サービス活動費用		21,171	4,761	5,864	987	14,429	3,577	12,405	5,665	5,350	3,621
サービス活動増減差額		▲ 792	373	▲ 942	▲ 232	18	▲ 960	▲ 544	317	515	528
（5年度）		525	145	▲ 870	▲ 231	894	▲ 202	678	363	2,323	241
サービス活動収益対 サービス活動増減差額 比率	(6年度)	▲ 3.8	7.2	▲ 19.1	▲ 30.7	0.1	▲ 36.6	▲ 4.5	5.2	8.7	12.7
	(5年度)	2.4	3.3	▲ 18.5	▲ 30.5	6.3	▲ 6.4	5.5	6.1	32.2	6.7
サービス活動 費用の内訳	人件費	14,170	3,299	4,449	987	9,714	2,688	8,685	4,611	4,712	3,124
	事業費	4,253	989	1,210	0	2,634	584	2,153	750	402	442
	事務費	2,177	504	57	0	1,161	60	1,057	68	51	42
	人件費率	69.5	64.2	90.3	130.7	67.2	102.7	73.2	77.0	80.3	75.2

(4) コンプライアンス（法令遵守）の徹底と組織統治（ガバナンス）の確立

本法人は、令和元年度から事業計画の経営の方針（目標）として「コンプライアンス（法令遵守）の徹底と組織統治（ガバナンス）の確立」を掲げ経営を行ってきました。

令和6年度の北九州市の指導監査は、法人及び高齢者施設は、特に大きな問題が認められない法人等として、指導監査は行われませんでした。

児童養護施設・保育園は、原則、毎年実地監査を行うとしていることから、指導監査が行われ、保育園について、「防火訓練」についての是正改善指示がありました。

今後も、理事会・評議員会・監事などの組織統治体制を確立するとともに、それらの役割を認識し経営を行います。また、社会的ルールを遵守し、また、社会に対して十分な説明責任を果たすため、公正かつ適正な経営を可能とする組織統治（ガバナンス）を行います。

2 施設の利用状況

(1) 児童養護施設 双葉学園 (定員 37 名)

月別初日在籍児童数 定員 37

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	月平均	5年度平均
幼児	5	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	4.5	7.33
小学生	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	15.25
中学生	8	8	8	8	9	9	9	9	9	10	10	10	8.91	3.91
高校生	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	8.83
専門生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
合計	33	32	32	32	33	33	33	34	34	35	35	35	33.41	35.32
利用率	89.1	86.4	86.4	86.4	89.1	89.1	89.1	91.8	91.8	94.5	94.5	94.5	90.2	95.4%

養護問題発生理由 (令和7年3月1日現在)

区 分	男子	女子	計	6年3月
父母の死亡				
父母の行方不明				
父母の離婚				
父母の不和				
父母の拘禁	1	1	2	2
父母の入院				
父母の就労				
父母の精神障害	5	4	9	8
父母の放任怠情				
父母の虐待	7	7	14	17
遺棄				
父母の養育拒否				
破産等経済的理由		2	2	2
その他	7	1	8	8
計	20	15	35	37

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり (定員 45 名)

月別初日在籍児童数 定員 45

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	月平均	5年度平均
幼児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0	3.9
小学生	10	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	10.4	15.8
中学生	16	16	16	16	16	16	14	14	14	14	14	14	15.0	13.1
高校生	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12.0	10.4
社会人	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.0
合計	44	44	43	43	43	43	41	42	42	42	42	42	42.6	43.2
利用率	97.7	97.7	95.5	95.5	95.5	95.5	91.1	93.3	93.3	93.3	93.3	93.3	94.6	95.9%

養護問題発生理由 (令和7年3月1日現在)

区 分	男子	女子	計	6年3月
父母の死亡				
父母の行方不明				
父母の離婚				
父母の不和				
父母の拘禁	4	2	6	
父母の入院				
父母の就労				
父母の精神障害	2	1	3	3
父母の放任怠情	2	2	4	4
父母の虐待	2	4	6	6
遺棄				
父母の養育拒否	10	12	22	29
破産等経済的理由				
その他		1	1	
計	20	22	42	42

(3) 双葉学園 児童家庭支援センター

月別相談実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度
新規受理人数	32	16	14	5	3	8	5	4	15	5	6	6	119	127
継続相談人数	0	16	19	16	33	13	19	18	40	41	22	30	267	274
相談実人数	32	32	33	21	36	21	24	22	55	46	28	36	386	401
延べ相談件数	151	124	144	67	220	138	172	152	208	174	126	144	1,820	1,850

相談・指導内容の種別延件数

養 護	虐待(再)	保 健	障 害	非 行	育 成				いじめ	DV	その他	合計
					性格行動	不登校	適 性	しつけ				
925	29	88	257	8	80	137	81	36	0	0	208	1,820

(4) 保育所 双葉保育園（定員90名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	月平均	5年度平均
0歳児	3	3	4	6	8	9	9	9	9	9	9	9	7.3	7.2
1歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9.0	10.1
2歳児	14	14	14	14	14	14	15	15	15	14	14	15	14.3	7.3
3歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6.0	12.5
4歳児	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10.8	16.0
5歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0	17.0
合計	57	57	58	61	63	64	65	65	65	64	64	65	62.3	70.1
利用率	63.3	63.3	64.4	67.7	70.0	71.1	72.2	72.2	72.2	71.1	71.1	72.2	69.2	77.8%

(5) 介護老人福祉施設 双葉苑（定員54名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
要介護1	3	3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	4	49	39
要介護2	3	5	4	5	5	6	6	6	6	6	6	6	64	22
要介護3	15	14	12	12	12	12	13	13	14	14	14	13	158	180
要介護4	15	15	15	15	15	14	13	14	14	14	14	15	173	181
要介護5	14	14	14	14	14	14	13	13	14	13	12	14	163	199
合計	50	51	49	50	50	50	49	50	53	52	51	52	607	621
延べ定員	1,620	1,674	1,620	1,674	1,674	1,620	1,674	1,620	1,674	1,674	1,512	1,674	19,710	19,764
延べ利用者数	1,454	1,475	1,407	1,528	1,500	1,437	1,499	1,474	1,581	1,585	1,403	1,597	17,940	18,333
利用率	89.7	89.8	88.4	92.9	91.3	90.4	91.1	92.6	96.2	96.3	94.4	97.1	91.0	92.7%

(6) 双葉苑短期入所生活介護事業所 (定員 16 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
延べ定員	480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	448	496	5,840	5,856
延べ利用者数	395	437	438	426	457	427	440	416	366	374	365	403	4,944	4,183
利用率	82.2	88.1	91.2	85.8	92.1	88.9	88.7	86.6	73.7	75.4	81.4	81.2	84.6	71.4%

(7) 双葉苑デイサービスセンター (定員 30 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
営業日数	26	27	25	27	25	25	27	26	26	25	24	26	284	286
延べ定員	780	810	750	810	750	750	810	780	780	750	720	780	9,270	9,330
延べ利用者数	469	496	463	521	470	527	571	503	497	401	442	543	5,903	5,477
利用率	60.1	61.2	61.7	64.3	62.6	70.2	70.4	64.4	63.7	53.4	61.3	69.6	63.6	58.7%

(8) 双葉苑居宅介護支援事業所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
利用者数	56	56	54	57	53	53	53	50	49	50	51	49	581	681

(9) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑 (定員 29 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	13
要介護2	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	71	59
要介護3	5	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	64	54
要介護4	10	8	8	7	7	7	7	7	7	7	8	8	91	142
要介護5	8	9	9	10	10	10	11	10	10	10	9	9	115	73
合計	29	29	29	29	29	28	29	28	28	28	29	27	342	341
延べ定員	870	899	870	899	899	870	899	870	899	899	812	899	10,585	10,614
延べ利用者数	870	899	870	899	865	840	839	823	862	833	778	817	10,195	10,160
利用率	100.0	101.0	101.0	101.0	97.2	97.4	94.3	95.4	96.7	93.5	96.8	91.7	96.3	95.7%

(10) グループホーム 双葉荘 (定員 9 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	3	3	3	2	1	1	1	2	2	2	2	2	24	14
要介護2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
要介護3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	11	22
要介護4	1	1	1	2	3	2	2	2	2	2	3	4	25	16
要介護5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	19
合計	6	6	6	5	5	4	4	5	5	5	6	6	63	71
延べ定員	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279	3,285	3,285
延べ利用者数	180	186	188	186	125	120	124	125	155	159	168	186	1,902	2,125
利用率	66.8	66.8	69.8	66.8	45.0	44.5	44.5	46.4	55.7	57.1	66.8	66.8	59.9	64.6%

(11) 地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその (定員29名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
要介護1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	21	26
要介護2	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	40	67
要介護3	10	9	9	10	9	8	7	7	8	5	6	8	96	125
要介護4	7	6	6	6	6	7	7	7	8	7	7	7	81	56
要介護5	4	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	55	32
合計	26	25	26	26	25	25	24	24	25	21	22	24	293	306
延べ定員	870	899	870	899	899	870	899	870	899	899	812	899	10,585	10,614
延べ利用者数	750	791	769	764	775	746	722	696	686	643	560	713	8,615	9,081
利用率	86.2	88.7	89.2	85.8	87.0	86.5	81.1	80.8	77.1	72.2	69.6	80.1	81.3	85.5%

(12) グループホーム ふたばのその (定員18名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	10	16
要介護2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16	13
要介護3	3	4	4	4	4	3	4	4	5	5	4	4	48	35
要介護4	3	3	3	3	4	5	5	4	4	4	4	4	46	26
要介護5	4	3	3	3	3	2	2	1	2	2	3	3	31	48
合計	13	13	13	13	13	12	12	10	13	13	13	13	151	138
延べ定員	540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6,570	6,588
延べ利用者数	367	389	390	402	359	331	328	294	310	342	352	385	4,249	3,978
利用率	67.9	70.1	72.6	72.4	64.7	61.6	59.1	54.7	55.9	61.6	70.2	69.3	64.6	60.3%

(13) 小規模多機能型居宅介護 ふたばのその

通所 定員 18

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	303	304
延べ定員	540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6,570	6,588
延べ利用者数	364	369	347	295	337	294	290	300	297	249	260	309	3,711	4,572
利用率	67.4	66.1	64.2	52.8	60.3	54.4	51.9	55.5	53.2	44.6	51.5	55.3	56.4	69.3%

宿泊 定員 8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
延べ定員	240	248	240	248	248	240	248	240	248	248	240	248	2,936	2,562
延べ利用者数	118	118	103	92	117	99	79	107	94	81	95	117	1,220	1,304
利用率	49.1	47.5	42.9	37.0	47.1	41.2	31.8	44.5	37.9	32.6	39.5	47.1	41.5	50.8%

訪問

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
延べ利用者数	104	108	113	121	125	114	112	112	126	155	140	164	1,494	1,533

(14) 小規模多機能型居宅介護 ふたばのみのり

通 所 定員 12

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	303	303
延べ定員	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	336	372	4,380	4,380
延べ利用者数	302	307	278	277	286	280	270	277	282	241	219	264	3,283	2,680
利用率	83.8	82.5	77.2	74.4	76.8	77.7	72.5	76.9	75.8	64.7	65.1	70.9	74.9	61.1%

宿 泊 定員 6

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
延べ定員	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190	2,190
延べ利用者数	148	160	143	162	156	157	125	110	120	85	77	80	1,523	1,148
利用率	82.2	86.0	79.4	87.0	83.8	87.2	67.2	61.1	64.5	45.6	45.8	43.0	69.5	52.4%

訪 問

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年1月	2月	3月	6年度計	5年度計
延べ利用者数	34	56	49	44	47	46	53	50	36	43	38	53	549	367

3 事業計画の取組結果

施設別に策定された事業計画(経営の計画)に基づき、事業を実施しました。引き続き、評価(年度途中での振り返りや見直し)及び進行管理を徹底します。

(1) 児童養護施設 双葉学園

項 目		具体的な取り組み結果
ア 小規模かつ地域分散化の推進	整備計画に基づく分散化の促進	① 毎月1回(第3月曜日)地域小規模施設のリーダー会議を開催(11月からは、グループ・ケアリーダーを含める)した。以下のように各会議の流れで会議を実施した。 ○幹部会においては、業務内容や行事日程等の原案を作成し、リーダー会議に提案する。 ○リーダー会議においては、各施設内の情報共有及び業務内容や行事日程等の審議を行う。 ○地域小規模施設会議では、各施設の情報共有や業務内容及び行事日程等を伝える。また、各施設の要望や意見を確認する。その後、幹部会に報告する。 ※上記の会議を実施することで、各小規模施設での状況を共有することで双葉学園としての一体化を図った。その結果、離立する各施設の孤立化の解消を図った。 ② 4月からは、全職員を対象に施設の高機能化・多機能化への機能転換を目的にした、施設改修後の運営や管理事項の確認の研修を行ってきた。
イ 虐待防止	(ア) 安全安心委員会活動	① 暴力、虐待等に対する児童への聴き取り(4～7月・8～1月)を実施したことで、問題行動等を未然に防ぐことが出来た。 ② 聴き取り結果等に基づく委員会協議(7・1月)の実施により、外部委員からのアドバイスを受け対処法等を学び、実践に活かすことが出来ている。 ③ 協議結果に沿った必要な措置を基に処遇に活かしている。(8月～・2月～)
	(イ) 児童への性教育・人権教育の実施	① 児童自治会は、毎月開催を目指していたが開催できない月もあった。児童の意見や要望を受け入れ、児童目線に沿った学園運営を推進していきたい。 ② 児童意見箱は、各小規模施設内に設置して、悩みや相談をきめ細かく把握するために設置した。 ③ 5、8、2月の年3回、性教育に関する学習会を開催した。 学園の看護師を講師に、児童と職員を分けて研修を行った。その後、アンケート調査を実施して周知を確認した。

		④ 6, 1 1月の年2回、人権擁護に関する研修を開催した。 その後、人権擁護に関するチェック調査を実施するなどして、人権意識の高揚を図っていった。 ⑤ 学力向上に関する取り組みでは、学習習慣の定着を目指して、小規模施設内で学習習慣の確立を目指してきた。 その他、受験に関わる児童の塾通い、学習ボランティアを活用して学力の向上を図っている。
ウ 職員の処遇スキルと倫理意識向上	(ア) 職員の処遇スキルと倫理意識向上	① 学園内での人権擁護研修や人権に関するDVD鑑賞を行って人権意識の高揚に努めた。研修後、チェックリスト調査を実施して人権意識の定着を図った。 ② チェックリストによる意識調査を実施した後、チェック内容の集計、分析をもとに人権擁護に関する課題の改善に向けて検討を行った。 ③ 11月から12月にかけて、施設長面談を実施した。この面談では、次年度の意見や要望を聞くとともに、本年度の自己評価も確認することができた。 ④ キャリアパス制度では、職員の定着や職務能力の向上等を目指してキャリア制度を構築した。また、日常業務の努力した結果や業務の実績等を記録することで労働意欲を高揚させた。
	(イ) 子ども家庭ソーシャルワーカー資格取得への支援	① 子ども家庭ソーシャルワーカー資格取得支援制度については、双葉学園と双葉学園みのりと連携して検討を行った ② 子ども家庭ソーシャルワーカー資格取得支援制度の運営については、幹部会やリーダー会議で検討したが、下記の理由で希望者アンケート調査までは至っていない。 ア 100時間以上の研修のため希望者が少なかった。 イ 1名の希望者がいたが、幹部会で止まっていた。
エ 人材育成	(ア) 新任職員事前研修	① 新採職員の辞令交付式後、オリエンテーションを開催して職員としての心得を確認した。各施設を見学しながら業務の概略を説明して、共通理解を図ることができた。 ② 園内の新採研修を年3回、北養協主催研修を年2回開催して、理事長や施設長から職員の心得を中心とする研修を実施した

	(イ) 新任者 OJT リーダーによる新任職員への 現場研修	① 研修担当をOJTリーダーにして研修計画を実践した。 ② 初任者OJT指導年間計画を作成して、計画的に研修実践に向けて努力した。 ③ 計画的に研修会を開催したが、2週間に一度の研修日誌の作成及び振り返りを徹底することはできなかった。 ④ I 職務遂行のための基本的能力、II 基本的事項、III 専門的事項の3項目に分けて業務達成度判定を実施した。 特に、C判定の職員に対しては支援を行った ⑤ 振り返りを目指した研修を実施した。自己評価とリーダー評価を実施して、特にリーダー評価の低い職員対象に指導や助言を強化した。 ⑥ 業務達成度判定では、2ヶ月目、4ヶ月目、6ヶ月目の3段階で研修判定を試みた。C判定を示した者(2名)に関しては、リーダーを介してフィールドバックを行い改善を試みた。
	(ウ) OJT の 実施 * 職員個々 人に実施	① OJTの組み合わせでは、教える側=8名(各リーダー職)と教わる側=8名(新採職員)のペアを作って、OJTを実践した。 ② OJTニーズの把握においては 相談しやすい環境を整備して気軽に聞ける体制を整備した。 ③ 7の項目を設定して、項目ごとに職務遂行のための基準を設定して、年間計画のバランスを配慮しながらOJT計画を実施した。 ④ OJT結果の確認では、業務達成度判定表の項目に沿って確認して判定した。判定ではB以上になるように丁寧に指導した。また、判定がCを示した職員に対しては意識しながら指導・助言をするようにした。 ⑤ 判定Cの職員を焦点化して、リーダーを介してフィールドバックを行い改善を試みた。
	(エ) OFF-JT の実施	① チェックリスト《職員版》の実施要領を基本にして、研修内容の把握を実施した。また、項目内容を細分化して、自己評価を含めて把握できた。 ② 新採職員研修を重点化して、計画的にOFF-JT研修を実施すると共に、振り返りシートを確認しながら効果的に把握することを試みた。 ③ 新採職員研修は計画的に実施されていたが、中堅職員育成を目指した研修計画が不足していた。これからは、学園外の研修を紹介して中堅職員の研修を強化したい。 ④ 別紙8-2の資料通り研修計画は実施されているが例年通りの傾向あり、内容の変化が必要と考え

		る。 ⑤復命書は作成されているが、施設内への還元までには至っていない。園外研修に対する意識変化と園内に還元しようとする姿勢が重要だと考える ⑤学園内の職員への還元という面では、効果が少ないと感じている。各職員が研修参加の意義を理解して研修に参加させ、研修内容を報告する機会を充実させたい。
オ 支援の質の向上	(ア) 第三者評価の受審	① 3年に1回の為、6年度は受審していない。
	(イ) 自己評価の実施及び改善	①人権擁護研修に対する自己評価は、47項目を設定して細分化してチェックした。 ②A評価が多かった。
カ 施設整備による生活環境の改善	建物の整備	① 計画のもと、本体施設の改築工事は3月に完成した。これからはソフト面を中心とした改修を実施する予定である。 ② 摩耗故障期の設備機器の改修は、改修工事を期に大幅に改善することができている。これらを有効活用ができるように努力していきたい。
キ 経営状況の改善・安定化	(ア) 経費削減への取り組み	① 業務費・事務費については、無駄にしている点や浪費している状況の実態を具体的に見出して、削減できる点を確認しながら削減をしていきたい。
	(イ) 人材の確保	① ハローワークに登録をして人材確保を試みているが、本年度のハローワーク経由の採用は0名であった。 また、各職員にも人材掘り起こしを意識するように伝えている。 ② 福祉職養成校を通して職員の募集をしようと考え、福祉職養成校との連携を強化している。 ③ 実習生への働きかけについては、積極的に実習生を受け入れ、児童養護の仕事に興味関心が持てるように指導している。
	(ウ) 児童福祉法等の一部改正への対応	①安全計画について、リーダー会議や地域小規模施設会議を通して職員周知を徹底している。 ②業務継続計画をさくていした、今後、職員へ周知する。
	(エ) 職員提案制度の運営	①5年度、6年度と採用された提案で実施されなかったものがある。職員提案制度に対する期待が薄くなっている。 ②実施されなかった、原因を把握し、実施する必要がある。
	(オ) 事務事業の効率化	①4月より新たな給食管理ソフトを導入して稼働した。業務量改善に向けて活用している。 ② 給与・勤怠管理システムやケース記録ソフトの

		導入を検討することとしていたが、検討までに至らなかった。
	(カ) 業務の見直し	① 幹部会議やリーダー会議でモニタリングの実施を検討した。各会議で業務改善の実施状況の評価を試みたが、効果的にはできなかった。 ② 9種の委員会が委員会活動を行い、1人が3役程度を兼務している。4月からは、各委員会の議題（テーマ）を設定させて、見通しを持った計画を作らせて、委員会活動を実施した。

(1) -ア 双葉学園 地域小規模児童養護施設 沓葉

項 目	具体的な取り組み結果
ア 町内との関係(地域性の向上)	① 地域一体となって、子どもたちを養育していくための環境を整備する。地域行事へ参加を重ね、児童養護施設の事を地域の方々に理解してもらう。 ② 地域のボランティア活動に積極的に参加する。 ③ 子ども会入会と行事への参加 ④ 休日を使って沓葉の前面道路を掃除するなど、地域貢献活動を実施する。 ⑤ 緑光苑の方々に、本園の見学をかねて、一日里親生活支援事業の説明をする。(本園改築後)
イ 各児童の自立のためのスキル向上と目標	① 5月11日、9月29日町内公園清掃活動 5月11日町内芋の苗植え 7月13日校区防災訓練 8月4日町内夏祭り 8月18日校区夏祭り 9月29日校区グラウンドゴルフ大会参加 10月13日校区体育祭 10月14日町内芋ほり 1月19日校区どんど焼き 3月22日町内会総会 ② 校区・町内の行事参加を通して地域住民との交流を図り、地域の一員であるという意識を醸成した。 ③ 開設後からの継続的な地域参加・交流により、児童は地域住民と顔見知りになったことで、自発的な挨拶や交流が出来ており、より良い関係性を築けている。 ④ 毎月第一土曜日に沓葉周辺を中心とした清掃活動や近隣住民への挨拶を通して、町内との関係性を深めた。 ⑤ 令和7年3月末に改修工事が終了となった為、実現していない。 これからは、事業計画に沿った地域行事へ参加する。 また、一日里親会員の新規獲得に努める。
	① 各児童、年齢・発達・特性等に応じ、年度初めの自立支援計画と毎月の支援目標をもとに支援・養育している。計画・目標・経過は分園会議を通して共通理解を行った。また、目標への達成度を振り返りながら支援の在り方を見直して成長を見守った。 ② 自立に向けた生活スキルの向上の為、身辺

		整理、家事、洗濯、掃除などは個々で取り組むと共に、定期的な買い物支援やマネーコネクション（外部講師）を活用して、金銭感覚の涵養に努めた。中学生の中には目的をもって貯金する児童もあり、先を見据えた金銭管理が出来るようになった。 ● 食事マナーの向上を図っていきたい ● 適切な言葉遣いを励行する。 ● 他者を思いやる心の醸成を図る。 ● 精神面・心の自立を図る
	②日課として日常化していく	① 園のルールブック等に沿った日課で生活した。改正したルールの内、児童の個人外出は日頃の生活態度を元に判断して、児童の気分転換や意欲の向上につながった。 ② テレビ視聴等の余暇時間の使い方においては、児童自治会等で話し合い、児童が主体となって取り決めることができた。 ③ 振り返りを行い、指導や助言をするなど適宜職員が介入していたが、児童間で解決できるよう見守りながら児童の主体性を養った。 ④ 児童間のトラブル、児童の素行不良等については、個別で振り返りを行うと共に、児童の想いを傾聴することに努めた。
	③ 指導・支援がなかなか入らない児童への対応	① 生活習慣が安定し、洗濯・食器洗いは定着している。
ウ 施設整備及び防災	①宿直室の設置	① 9月に居室割を整理して、リビングを間仕切りすることで宿直空間を確保した。 ＜今後の取組み＞ 平屋の職員室を整備して、休憩できる環境を整える。
	② 避難訓練等の実施	① 4月は、分園内の消火器・誘導灯の位置を確認した。また、動画視聴を通して火災・地震からの適切な避難の仕方を学んだ。 ② 5月は、分園から本園への避難経路、町内・校区内の避難場所等を確認した。 ③ 6月は、キッチンを火元とした火災避難訓練を実施した。

		④ 7月は、校区の防災訓練に参加して、避難・消化訓練、防災食を体験した。 ⑤ 8月は、福岡市民防災センターにおいて火災・地震体験して、消火器の手技を学んだ。 ⑥ 9月は、地震を想定した避難訓練を実施した。 ⑦ 10月は、4月同様の活動を行った ⑧ 11月は、5月同様の活動を行った。 ⑨ 12月～3月は、里帰り期間があった為に、本園の避難訓練に参加するとともに、防災食を体験する機会を設けた。 ※ 夜間想定 of 訓練を実施したい。
	③施設周辺環境の整備	① 週1回、建物周辺の草取りを実施。必要に応じて除草剤を散布した。 ② 敷地内の植木を選定、花壇で草花を育て、活花を食卓に飾った。 ③ 台風に備え、駐車場雨どいを修理した。玄関木製衝立については、破損していた為、大家の許可を得て撤去した。
エ 行事の実施	①児童による季節感のある行事の提案と実施	① 季節行事は本園と同様に実施。玄関等に季節に合わせた小物を飾り、季節感を感じ取れる工夫をした。 ② 児童自治会で挙げた意見をもとに内容・行先等を決定した。
	②地域の方々との交流行事に積極的に参加する。	① 積極的に畑仕事に取り組むことができた ② 公園掃除に積極的に参加して、環境美化に努めた。
	③本園とのやりとりを頻繁に行い行事内容が不公平にならないようにする。	① 委員会所属の職員は、定期開催の委員会へ参加した。必要に応じて地域行事の情報を提供した。 ② 分園会議にておいて委員会報告を行い、他職員へ周知した。児童へ行事説明・事前学習等を行った。 ※ 職員の行事参加数や引率数に偏りが無いように配慮した。
オ 職員の職務能力の向上	①昨年度作成した、勤務別マニュアルに、今年度経験した	① 8月までにマニュアルを見直して、加筆修正した物を職員部屋に設置する。全職員が閲覧できるように工夫をした。

	内容などから、加筆修正を加え、業務に反映する。 ② 専業職員に共通理解が出来るよう、職員会議で内容を確認する。	② 業務の疑問点は、引継ぎノートを活用して、その都度、解決・改善に努めていきたい。 ※ 児童の日課やルールの変化を意識して見直しを行い、マニュアルに反映させながら周知徹底していきたい。
	① 研修の受講	① 以下の通り研修会に参加した。 4月9・16日 園内新任職員研修会（2名） 5月27日北養協初任者Ⅰ研修会（2名） 8月30日北養協コンプライアンス研修会（1名） 9月30日北養協初任者Ⅲ研修会（1名） 1月15日北養協性教育研修会（1名） 研修後は、復命書を提出して、職員会議・分園会議にて伝達した。 ② 本園での昼礼・職員会議に輪番制で出席して、本園職員との交流を図るように努めた。

（1）－イ 双葉学園 地域小規模児童養護施設 式葉

項 目	具体的な取り組み結果
ア 町内との関係（地域性の向上）	① 積極的な町内会行事への参加 ① 毎月第一土曜日に長行さくら公園の美化活動（清掃）を行い、近隣の方から温かい言葉を頂いている。 また、4月のこいのぼりまつりとアユの放流、7月の紫川沿いの清掃と川祭りに弥生町内クリーン作戦、8月の弥生町内盆踊りに参加し、地域の方々から「よく来たね」と喜ばれている。 ② 令和6年11月～長行校区児童館まつり 令和7年1月～長行校区どんと焼き 令和7年2月～長行校区ふれあいウォーキング 令和7年3月～うなぎの放流

	① 地域参加の推進 (子どもたちが具体的な家庭モデルを体験する取り組み)	① 里親事業を通じて、子ども達が里親さんと親しくなることで、普段の生活の会話で里親さんの名前が出るようになった。 ② 職員の勤務シフトによって、は遊びに行けないこともあり参葉の応援を依頼することもあった。 ③ 家庭的な生活におけるマナーや常識を教えていたがなかなか実践することが厳しかった。 ④ 約束事を決めても、自分勝手な解釈する事が多い。 ⑤ 令和6年度では、長行校区・弥生町内会の行事に積極的に参加した交流と親睦を図ることができた。
イ 各児童の自立のためのスキル向上と目標	① 各自の自立に必要なスキルの明確化 (年齢・月齢に応じたスキル)	① 高3児童においては、自立支援にむけた就職活動と宿泊型のグループホーム体験をする。 ② 中1児童においては、自分自身で整理整頓が出来る様に指導してきたが、全く出来ていないのが現状である。 ③ 小6児童2名については、高学年になった事を自覚して言葉遣いや行動をする様に指導するが、1名がなかなか難しい状況である。 ④ 小3児童においては、一番年下であり、甘えることの脱却を目指しているが出来ていない面がある。 ⑤ 高3児童は、卒業までに就職先を決めて自立精神を向上させた。 ⑥ 中1児童には、進学するまでに職員のお手伝いと計画的な段取り、積極的な行動、整理整頓を身に付けるために指導を行った。 ⑦ 小学生には、進学するまでに思いやりの精神を向上させる事と、新年度にあたり新たな目標を設定させて頑張りたい。
	①日課等の決定	① 毎月自治会を開催し、児童と弐葉内のルール等で意見を取り入れてはいるものの、実際に行動が伴っていないのが現状である。 ② トラブル・小競り合いがおこる度に振り返りを行ってはいるが、反省の色が見えない児童もいる。 ③ 令和6年10月～中1児童の子総・療育センター心理士によるカウンセリングを開始した。
ウ 施設整備及び防	①非常口常夜灯の設置	① 令和6年9月設置完了

災	②火災報知器の設置	① 令和6年9月設置完了
	③避難訓練等の実施	④ 毎月第一土曜を基準に避難訓練を実施しているが、中高生の部活動等で児童全員が揃う機会がなかった。 ⑤ 夜間による避難訓練は実施することができなかった。 ⑥ 令和6年8月8日学園行事として、福岡市防災センターに出向き、体験学習をして防災意識を身につけた。 ⑦ 令和6年10月、夜間を想定した避難訓練を実施した。 ⑧ 令和6年10月、地震・風水害・不審者等の避難訓練を実施した。
	③ 施設周辺環境の整備	① 令和6年度上半期では、第一土曜を美化活動日として取り組むが、小学生を中心とした清掃活動となった。 ② 天候の悪い日は、日程を調整して第二・第四の曜日に実施した。 ③ 中高生においては、部活動がない場合に限り、必ず清掃活動に参加するように指導した。
エ 行事の実施	①児童による季節感のある行事の提案と実施	①式葉行事（ゴールデンウィーク、夏休み買物行事）については、子ども達と協議をして実行した。 ②今後も式葉行事においては、自治会のみならず日頃から児童に声掛けをし、行事を決めていく。年末年始の行事においても児童の意見を取り入れる。
	②地域の方々の交流行事に積極的に参加する。	①令和6年度行事、4月のこいのぼりまつり、アユの放流、7月の紫川沿いの清掃と川祭り、弥生町内クリーン作戦、8月の町内盆踊りにおいては、地域行事に参加した。 ② 令和6年11月～長行校区児童館まつり 令和7年1月～長行校区どんと焼き 令和7年2月～長行校区ふれあいウォーキング 令和7年3月～うなぎの放流
オ 職員の職務能力の向上	② 職員の業務の均一化を図るため、マニュアル化	① 児童の日課や職員の業務内容の詳細については、進んでいないのが現状である。学園のしおりやルールブックについては、手つかずの状態であった

	を急ぐ。	② 令和6年度中に改訂版ルールブックの見直しでは、作成中の新マニュアルを活用しながら業務の均一化を図って児童自治会を積極的に活用していきたい。
	③ 研修の受講	① 7月16日 処遇困難事例研究 ② 9月30日 初任者Ⅲ研修受講した後、研修内容を式葉職員に伝達し共有することができた。 ③ 本園の研修委員会が設定した研修会に積極的に参加することで見識を深め、伝達研修を行うことで共通理解を図った。 ④ 本園並びに各ブロックとのコミュニケーションを深めて、委員会及び研修会に参画した。

(1) ウ 双葉学園 地域小規模児童養護施設 参葉

項 目		具体的な取り組み結果
ア 町内との関係(地域性の向上)	積極的な町内会行事への参加	① 令和6年4月14日鯉のぼりまつり ② 令和6年4月20日アユの放流体験 ③ 令和6年7月21日川祭り・紫川清掃活動 ④ 令和6年7月28日弥生町内クリーン作戦 ⑤ 令和6年8月16日弥生町内盆踊り大会 ⑥ 令和6年8月24日長行校区夏祭り ⑦ 令和6年11月9日長行校区ふれあい文化祭 ⑧ 令和6年11月16日長行校区児童館祭り ⑨ 令和7年1月12日長行校区どんと焼き ⑩ 令和7年3月12日弥生町内総会 ※ 令和6年度は、長行校区・弥生町内会行事の積極的な参加による地域交流と親睦ができた。
	地域参加の促進(子どもたちが具体的な家庭モデルを体験する取り組み)	① 挨拶の励行(こちらから挨拶するように指導を行った) ② 道路等の清掃(落ちているごみを自然体で拾うように指導した)
イ 各児童の自立のためのスキル向上と目標	各自の自立に必要なスキルの明確化	① 年齢に適した学習指導と見守り・声掛け 【小学生】 ・小学生(2年)は本園同様に帰園後、直ぐに宿題を終わらせてから遊ぶようにした。また休日は掃除時間が終了後から1時間の学習時間を設け継続実施した。 9月の学習参観日以降の下校は一人で帰園出来るようになり問題行動は無い。

	・10月より本園から移動となった小学生(4年)は、何かに夢中になると時間を忘れて没頭するため、置時計を使用して自分で時計を見ながら行動が出来るように職員が声掛けサポートしながら経過観察した。 【中学生】 ・中学生は自発的に勉強に取り組む姿勢が見られ、学習習慣がしっかりと身に付く。塾通いが良いペースメーカーとなった。 ・中学生(1年)については、部活と勉強の両立ができた。 ・中学生(3年)は、7月で部活を引退し、受験に向けた勉強体制を作りゲーム時間を短縮して学習に取り組み、一般入試で第1志望校に合格できた。 【高校生】 ・高校生(3年)については、7月で生徒会を引退し、本格的に勉強に取り組む。結果、12月の推薦入試に合格した。合格後は、自立に向けた支援を卒園まで継続した。4月から措置延長して一人暮らしとなる。 【専門学生】 ・措置延長の専門学生(1年)はあと1年あるため、自立に向けた援助を実施しながら通院(心療内科)を継続した。引き続き医療機関と連携しながら精神の安定に配慮する。 ② 食事・洗濯・掃除などの手伝い ・小・中学生は食事の準備や後片付けを積極的に行い、あいさつもきちんと出来た。洗濯や掃除が出来ない(しない)児童については、職員が地道に声掛けを継続した成果もあり、12月頃より自ら行動するようになった。 ③ 居室の整理整頓 ・各自毎週土・日曜日の9時から30分間、掃除と整理整頓の時間とした。 ④ 節電・節水に対する意識付けと声掛け ・児童居室の電気やエアコンをつけたままで登校することが週に1~2回程度あった。 ・昨年の入居当時から地道に声掛けしながら指導した結果が確実に見られ、児童の意識改革が見受けられた。 ※各児童の自立に必要なスキルについては、職員間及び児童と話し合いながら自己目標を達成に向け
--	--

		て努力させた。																																							
	日課等の決定	① 月 1 回開催する分園会議にて、ケース記録の目標をもとに各児童に対する日課の見直しを検討した。 ② 年齢に応じてラミネートや写真（片付け方）や紙面化して『見える化』実施の取り組みを継続する。																																							
ウ 施設設備及び防災	非常口誘導灯の設置	①設置業者は施設設備委員会で決定済み ※令和 6 年 1 0 月 2 9 日設置検査完了した。																																							
	火災報知器の設置	①設置業者は施設設備委員会で決定済み ※令和 6 年度 1 0 月 2 9 日設検査置完了した。																																							
	避難訓練の実施 (事前に児童に周知して毎月行う。 またいろいろな災害を想定して行う)	<table><tr><th>年月日</th><th>時 間</th><th>内 容</th></tr><tr><td>R6. 4. 20</td><td>14 : 00</td><td>火災想定</td></tr><tr><td>R6. 5. 11</td><td>13 : 50</td><td>地震想定（倒壊）</td></tr><tr><td>R6. 6. 01</td><td>15 : 30</td><td>本園への避難経路確認</td></tr><tr><td>R6. 7. 20</td><td>14 : 00</td><td>福岡市防災センターとは</td></tr><tr><td>R6. 8. 08</td><td>10 : 30</td><td>福岡市防災センター見学</td></tr><tr><td>R6. 9. 28</td><td>14 : 00</td><td>消防設備設置場所確認</td></tr><tr><td>R6. 10. 05</td><td>11 : 00</td><td>火災（タコ足配線危険性）</td></tr><tr><td>R6. 11. 02</td><td>13 : 00</td><td>避難行動検証</td></tr><tr><td>R6. 12. 21</td><td>19 : 40</td><td>夜間火災訓練</td></tr><tr><td>R7. 1. 30</td><td>18 : 00</td><td>防災体験事業（防災食）</td></tr><tr><td>R7. 2. 08</td><td>14 : 40</td><td>火災想定（DVD 鑑賞）</td></tr><tr><td>R7. 3. 25</td><td>13 : 50</td><td>地震想定（家具安全対策）</td></tr></table> 〈今後の取り組み〉 ・毎月第 1 土曜日に避難訓練を実施する。 ・令和 7 年度も学園全体行事として各種委員会と協力し『福岡市防災センター』に出向き、体験学習を通じて防災知識を身に着ける。	年月日	時 間	内 容	R6. 4. 20	14 : 00	火災想定	R6. 5. 11	13 : 50	地震想定（倒壊）	R6. 6. 01	15 : 30	本園への避難経路確認	R6. 7. 20	14 : 00	福岡市防災センターとは	R6. 8. 08	10 : 30	福岡市防災センター見学	R6. 9. 28	14 : 00	消防設備設置場所確認	R6. 10. 05	11 : 00	火災（タコ足配線危険性）	R6. 11. 02	13 : 00	避難行動検証	R6. 12. 21	19 : 40	夜間火災訓練	R7. 1. 30	18 : 00	防災体験事業（防災食）	R7. 2. 08	14 : 40	火災想定（DVD 鑑賞）	R7. 3. 25	13 : 50	地震想定（家具安全対策）
	年月日	時 間	内 容																																						
	R6. 4. 20	14 : 00	火災想定																																						
R6. 5. 11	13 : 50	地震想定（倒壊）																																							
R6. 6. 01	15 : 30	本園への避難経路確認																																							
R6. 7. 20	14 : 00	福岡市防災センターとは																																							
R6. 8. 08	10 : 30	福岡市防災センター見学																																							
R6. 9. 28	14 : 00	消防設備設置場所確認																																							
R6. 10. 05	11 : 00	火災（タコ足配線危険性）																																							
R6. 11. 02	13 : 00	避難行動検証																																							
R6. 12. 21	19 : 40	夜間火災訓練																																							
R7. 1. 30	18 : 00	防災体験事業（防災食）																																							
R7. 2. 08	14 : 40	火災想定（DVD 鑑賞）																																							
R7. 3. 25	13 : 50	地震想定（家具安全対策）																																							
施設周辺環境の整備	① 令和 5 年 9 月の開設当初より実施している清掃活動は、悪天候や行事等が無い限り、毎週土・日曜日に長行さくら公園およびその近辺道沿いの清掃活動を継続する。 ※ 令和 6 年度は、第 1 土曜日を環境美化強化日と定め、毎週土・日曜日の清掃活動を継続することができた。																																								
エ 行事の実施	児童による季節感のある行事の提案と実施 ①児童の自発的な行事の提案には至らず地域行事に参加させて貰うこととなる。 ・カレンダーを使って、季節やその時々行事を決定																																								

		し実施した。 ・各取り組みについては、子どもたちと話し合いを通して考えさせ、子どもたちからの提案を傾聴し、出来る行事は子どもと一緒にいった。
	地域の方々との交流行事に積極的に参加	①長行校区・町内行事に準ずる取り組みにも参加した。 例：こいのぼり祭り、児童館まつり、ウォーキング大会、クリーンアップ清掃活動（消毒活動）盆踊り、校区体育祭、地域夜間巡回など。
オ 職員の職務能力の向上	職員の業務の均一化を図るためマニュアル化を急ぐ。	②児童の日課や職員の業務内容の細やかな部分を確立させた。 ③ 勤務別業務日課の『やること』のタイムスケジュールを紙面化して宿直室に掲示する。 ※ 改訂したマニュアルに基づき、新マニュアルを活用しながら業務の均一化を図り、児童自治会を積極的に活用して児童の意見を汲み取り児童が自分らしく生活出来るよう配慮することができた。
	研修の受講	①通年で本園研修委員会が設定した研修会に対象職員が参加し見識を深めることができた。 ※ 本園とのコミュニケーションを積極的にとり、各種委員会への参加や活動に取り組むことができた。

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり

項 目	具体的な取組結果
ア 小規模かつ地域分散化に向けた計画の策定とユニットの確立及び多機能化・高機能化に向けた支援の質の向上	・地域分散化の推進 ・職員の孤立化防止 ・地域に開かれた施設運営 ① 地域小規模児童養護施設の開設 ② 令和6年4月開設予定の物件については地域住民の反対により白紙となる。また、令和6年11月に開設予定であったの物件についても売主が逝去され白紙となった。 ③ 八幡西区西鳴水の物件にて開設のため、事前に町協会長や自治区会会長、黒畑市民センター長、開所予定の地域施設の近所の家庭に挨拶や今後の説明等を行った。 ④ 令和7年2月1日北九州市の認可を受ける。小規模施設には幼稚園や小学生、高校生と縦割りで女子6人の児童が生活している。生活場所が変わることに対する児童たちの同意や保護者からの承諾、学校の転校手続きも含めてスムーズに進めることができた。 ⑤ 基本理念をベースにより家庭的な事業ができるよう地域行事への参加を進めている。子育て支援課が2月1日付で家賃の上限を20万円と設定した。それ以外は、計画通り運用されている。 ⑥ 令和8年4月男子児童を対象とした地域小規模児童養護施設の開設を目指していく。
	・自己肯定感を高める教育活動の実施 (ア) 学習習慣の確立 ① 自律的学習習慣の明確化 ・中高生の定期考査前の学習時間を設定し習慣化を目指し、職員から学習することを指示されるのではなく、児童が自ら学習に取り組むことを「自律的学習習慣」と定め、20時以降はテレビを見たりやゲームをしたりしないで机に自ら向かうように学習時間を設定した。 ・定期考査が近づくにつれて、他の人の指示を受けずに、児童が自らテレビやゲームの電源を切り、机に向かう姿が見られた。 ・定期考査のない小学生も必然的に静かに居室やリビングで読書や自主勉強に取り組み始めるなど好影響が見られた。 (考査1週間前、20時からはユニット内でテレビ観賞、ゲームの自粛。この時間帯については小学生も学習や読書を推奨) ② 児童個々人の「自律的学習習慣」の達成度の判定及び支援結果の評価 ・全員の定期考査の結果を支援向上委員会が集約し、次回の定期考査に生かせるように担当職員だけでなく、ユニット全職員で情報を共有した。特に、受験生の中

		学3年生は志望校決定の情報の大きな一つとなった。 ・上記の取り組みを通じ、以前よりも学習意欲は高まっている傾向にあり、成績向上に向けて各々取り組んでいる。 ・定期考査の2週間前から児童の会話の中に1週間後には20時には机に向かって学習することが話題にも上がるなど学習に対する意識が高まっていた。 ・児童の進学について、公立高校進学1名、推薦により、私立高校進学2名、4年制大学進学2名、専門学校進学1名
	(イ) 習い事・塾	①児童の希望と各々の特性を考慮し、職員との話し合いのうえで習い事を決定している。 ②今年度は、水泳6名、ダンス3名、華道3名、ピアノ2名、ウクレレ1名の計15名が習い事を行った。 ③クリスマス会やお別れ会等の催しでピアノ、ダンス、ウクレレの成果を披露した。児童のモチベーションとなっている。
	(ウ) 自立に向けて	① 自立支援計画に基づき、日々の適切な声掛けや支援を業務日誌に記録し、支援のプロセスが見えるように取り組んでいる。 ② ライフストーリーワークについて、適切な時期、方法を学ぶため、職員を対象に研修を計画し、来年度の5月より、講師に千葉県成田学園の斎藤大作氏によって、リモート研修を中心に実施する。 ③ 適職診断については冬休みに実施予定だったが、全児童に実施できずに、高校入学にあたる中学校3年生4名に対し行った。それぞれの児童の進路指導の資料として生かすことができた。 ④ 11月22日ウエルとばたで開催された北九州市児童虐待問題市民講座に2名が参加した。また、園内での虐待防止研修を2月10日に本園の久光暁人心理士を講師として実施し9名が参加した。
	・安全・安心委員会を設置し、三種の暴力に対する包括的な対応	① 4～6月に安全安心委員会の聴き取りを全児童に実施し、児童間のトラブルなど迅速に対応し、問題解決を図った。 ② 聞き取り結果などについては施設長を含めた委員会で協議し、適宜対応している。 夏休み期間中に児童間の傷害事件や自殺未遂と言った重大な事案も発生しており、保護者・子総・北九

		州市への報告を行った。 ② 再発防止策として、ユニットに児童がいる時間は、必ず職員の目が届くようにすること。児童の状況、情報は全職員で共有することを強化した。 ③ 特に、日ごろから児童への声掛けや観察を行う。また、児童の情報はスピーディにエルガナ等（職員連絡用ツール）を活用してユニット内で共有するようにした。ユニットの全児童についてユニットの全職員が個々の児童の情報をつぶさに把握することができ、トラブルが急激に減少した。
ウ 職員の処遇スキルと倫理意識の向上	・段階的、計画的な職員研修の実施 (ア) 新任職員の事前研修	① 人財対策委員会による研修計画に沿って、管理職・専門職による研修を実施し、関係機関及び多種職の連携について理解を深めた。 ② 職員の親睦会を7月に実施し、相談しやすい環境づくり、信頼関係の構築のきっかけとした。 ③ 園内研修後には、研修の振り返りを含めて、講師と受講者と一緒に茶話会を催した。ここでは新任職員から日ごろの業務の悩み等が話題となった。 ④ 北養協の新任研修を受講した。
	(イ) 新任者OJTリーダーによる新任職員への現場研修	① 新任職員が配属されたユニットのリーダーをOJTリーダーに位置付ける。 ② 新任職員は2週間毎の研修日誌の提出と業務達成シートを活用した自己評価及びリーダー評価を基に自身の課題や長所を自覚し、必要な助言及び支援を行い業務が円滑に行えるようにした。 ③ 10月には入職後6か月が経過するため業務達成度判定を研修調査委員長と施設長や係長、課長も参加して実施した。3名の初任者は業務の達成が概ねできていた ④ 個人面談で自己評価とリーダー評価が乖離している場合は、係長・課長がリーダーと面談を実施し、評価の観点や指導方法など確認した。
	(①) OJTの実施	① ユニットリーダーと新任職員、男性職員と第2課長、女性職員と第1課長の帯同研修を実施した ② 業務達成度判定で指導の重点を把握し、帯同やアドバイスを実施した。 ② 年2回の面談及び必要に応じた面談で確認を行う。12月に2回目の面談を行い、本年度の成果と来年度に向けた課題を話し合い、明らかにした。 ③ 同様に自己申告・自己評価をもとに本年度を振り返り、将来の希望に沿った研修計画を話し合った。

	(エ) 職場内 OFF-JT の実 施	① 調査研修委員会で年間計画を立案。 ② 受講者全員が研修毎に復命書による受講報告を作成し、資料と共に閲覧できるようにしている。毎月の職員会議において研修報告を行い、質疑応答を通じて内容を深めた。 ③ 参加できていない職員からも活発な質問が出され研修が深まった。
	(オ) 職場外 OFF-JT の実 施	① 北養協の年間研修計画に沿って職員の勤続年数及び過去の研修履歴等を鑑みて年間の研修計画を立案した。 ② 研修調査委員会の企画により、県内の施設見学研修を5つのグループに分けて、全職員が参加できるようにした。 ③ 定例の職員会議の中で、受講した研修会の成果や情報を発表し、質疑応答を時間も確保した。質疑応答を重ねるごとに研修内容の理解が深まり、有意義な時間となった。
	(カ) 「子ども家庭ソーシャルワーカー」資格取得への支援	① 7年度から実施できるように10月に双葉学園とみのり（研修調査委員会委員長・第一課長）とで、プロジェクトチームを立ち上げた。 ② 研修の受講場所や受講条件等の詳細を調べると、研修場所が北九州市ではなく広島で開催されることや、研修受講者に対し北九州市からの補助金が交付されないこと、研修受講条件を満たさない職員が多いことを事由にこの懸案は中止となった。 ③ 4月の自己申告では、「子ども家庭ソーシャルワーカー」資格取得希望者は4名いたが、12月の自己申告・自己評価面談の際の受験の意思の有無の確認はできなかった。 ④ 本園を含めたプロジェクトチームで検討したが、北九州市からの補助金等が交付されない現状では、実施を見送る。
エ 施設整備 による生活環境の 改善 オ 業務改善 の取組	・大規模修繕 を見据えた資金の 積立計画	① 現時点で施設躯体や電気設備等について喫緊に修繕をする箇所はないが、開設から7年が経過しているため長期的な整備計画の準備を始めた。 ② 家電製品等についてはユニット洗濯機2台の修理をした。これらは耐用年数を過ぎ、部品交換では修復できないものだった。他のユニットでも同じ型式の洗濯機を使用しているので、取り扱いについて注意を呼び掛けている。

		③ 令和6年4月にJKAからの補助が決定し、10月に日産キャラバンの導入することができた。ユニットごとの外出やスポーツ大会参加等に児童を引率することができた。
	・安全計画・事業継続計画に則った取組	① 安全計画・事業継続計画に沿った取り組みを実施している。 ② 令和7年度に自動車や自転車の購入があり、同時期に地域小規模施設を開所したので安全計画の見直しを行った。 ③ 自動車や自転車の乗り方や整備について再度見直した。
	・情報の整理を行い、共有しやすいシステムの構築	① 10～11月に運営委員による課題の洗い出しと優先順位及び費用対効果を検討した。 ② 優先順位で一番に上がったのは、全職員が活用している共有フォルダの整理整頓である。検索機能はあるもののフォルダの多さから検索に時間を要し、作業の効率化を阻んでいるのですぐに必要なファイルを見つけることができるようにした。 ③ 現在利用している記録システム「抱き」のツールを何処まで活用できているのかも含めて業務改善に向けて検討を行っていく。事務員も含め、システム導入に際し、慎重な検討が必要であるため、令和8年度よりIT委員会を設置し取り組んでいく。 ④ 現在、年に4回広報誌を発行している。1回の発行で広報誌と案内文とそれぞれ約180枚を郵送している。2種類の紙媒体を考えると全部で約360枚である。封筒に入れる手間や高騰する郵送料を考えると、みのりのホームページ等を活用しネットで公開できる方にはできるだけ郵送を控えるようにした。

(3) 双葉学園 児童家庭支援センター

項 目	具体的な取り組み結果
ア センターの周知と相談件数の確保	① Instagram を年間 26 回更新した ② 市民センターでの子育て支援事業に毎月参加。11 月は心理士による子育て講話を開催し、年間を通して 96 組の親子が参加した。 ③ わいわい子育て相談へは、4 月以外毎月参加。合計 18 組の発達相談を心理士が受けた。 ④ 里親・ファミリーホーム支援のための連絡会議には、月 2 回参加。毎月の里親サロン・8 月の里親会のデイキャンプに参加。里親に認知されるようになり、14 名の里子に関する相談を受けた。
イ 職員の資質向上のための取り組み	年 2 回以上の外部研修への参加 ① 全国児童家庭支援センター協議会主催研修に、オンライン参加した。 ② 九州児童家庭支援センター協議会主催研修に年間 5 回参加した。 ③ 全国里親大会九州ブロック大会オンライン参加した。 ④ 家庭支援ソーシャルワーク講座など、主に家庭支援に関する研修を 4 回受講した。
ウ 業務の効率化	① 現在ケースの担当者ごとに違う、ケース記録の表記方法を統一するため、共通のケース記録、子総提出用フォーマットを作成した。

(4) 保育所 双葉保育園

項 目	具体的な取り組み結果
ア 定員の確保 (70 名)	集客戦略の作成及び実施 ① 集客委員会を立ち上げ、見学者を受け入れや地域へのアピール、ホームページ等で情報発信をおこなった。 ② 園児は、6 年 4 月 : 57 名 → 7 年 3 月 : 65 名になる。現状の保育士数では、この人数が限度である。 ③ 「園生活の写真が見たい」との要望があったので、7 年度、園の様子を写真の掲示・販売することを計画し、写真撮りをしている。 ④ SWOT 分析を用いて自身の事業所の強み・弱み・機会・脅威を洗い出すこととしていたが、取り組みなかった。
イ 保育目標	情緒の安定を図る ① 幼児期までに育てて欲しい 10 の姿を明確にした。 ② 各年齢 (クラス) で保育内容を決定する年間計画を

		作成した。 ③ 計画を日々、実施した。
ウ 行事の実施	日本伝統行事に触れる等各種行事の実施	① 6 年 4 月に年間行事計画を作成し、随時、実施した。 ② 運動会・生活発表会の実施 ③ 園外保育やお泊り保育（年長組）の実施 ④ 日本の伝統行事（七五三、ひな祭り等）を各クラスで工夫して実施した。
エ 保育士の確保	ハローワークや養成学校等での募集	① 出入りは、あったが、6 年 4 月以降正規・臨時・パートで 5 人の採用をした。 ② 7 年度も保育士 2 人採用できた
オ 保育の質の向上	研修の受講等（職員の資質の向上）	① 園内研修計画を 4 月作成し、保育内容等の研修を計画に基づき実施した。 ② 新採職員のオリエンテーションは、3 月に行った。 ③ 各クラスの本日の状況等の共通理解を図るため、を毎日昼に申し送り会議を実施した。 ④ 園長による職員面接を 9 月に実施した。
	自己評価の実施及び改善	① 6 年 9 月に自己評価を行い、保育を見つめ直した。 ② 但し、分析までは、出来ていない。
	係活動による質の向上	① 6 年 4 月から各職員の配属係を決めた。 ② 各係での検討対象テーマの決定や改善案の立案、改善案の実施までには至らなかった。
カ 業務の ICT 化	生産性の向上	① ICT 化推進チーム（係）の設置までは至らなかったが、得意な職員が一部改善を行った。 ② ICT 化システムの導入までには至らず。。
キ 施設整備	各種整備	① 6 年 6 月に点検を行い、出入り口の門の劣化が認められたが、7 年度実施予定とした。
	防犯カメラ設置	③ 防犯カメラは 3 月に設置した。（園庭 3 個、室内 4 個）
	花壇の手入れ	④ 四季折々の季節の花の植え替え等、花壇の手入れは、日々、行っている。

(5) 介護老人福祉施設 双葉苑

項 目	具体的な取り組み結果
ア 年間利用率 90%以上の 確保 (ア) 退居時 の空室期間の 短縮 (14日以内 に入居)	① 入居検討会議を開催、即時入居待機者、待機者に分類した。 ② 退居予定者リストを作成することになっていたが、困難であった。施設利用中は、急変又は病院にて検査時担当医から検査入院等告げられない限り退居することが無いので予測が出来ない為である。 ③ 即時入居が可能な待機者には、待機者及び御家族へ確認の連絡を入れ可能である待機者を見つけるようにしている。 ④ 空床が出来た場合の14日以内の入居を目指したが、入院社からの入居は医療機関等の調整等、在宅からの入居も家族との調整等時間がかかり、現実には難しかった。 ⑤ ショートステイ、小多機、ディサービス、グループホームにも声かけを行い入居申し込みされた方には、入居の促し入居申し込みをされてない方には申し込みの促しを行った結果、令和6年4月1日～令和7年3月31日までの双葉苑ショートステイより5名、その小多機より1名の計6名を紹介され入居された。 ⑥ 令和6年度の利用率は、91.4%であった。
(イ) 入院時 の空室期間の 短縮	① 【医療機関との入院調整を行う基準】について、医療機関と嘱託医を交え協議し決定した。 ② 入院診療計画書は病院から入院時御家族に渡されるので施設側は入手できなかった。 ③ 入院中の方については、1週間に1度病院に連絡をし、担当の看護師又はソーシャルワーカーから状態説明と入院期間の確認を行った。以前は2週間に1度確認だったが、1週間に1度確認に変更し、状態把握がしやすく効果はあった。 ④ 病院に御利用者が受診をした時に、入院が必要と担当医師が判断した際、入院調整を行った。

		⑤ 嘱託医を交え協議し、入退院をして自施設で受け入れることが可能な御利用者には、再度利用されている。
	(ウ) 医療行為が必要な方の受け入れ	① 施設長、専門職等と協議を行い、在宅酸素、バルーン、ストーマ、インシュリンが候補に挙がった。在宅酸素、ストーマについては受け入れ可能である。バルーンについては、夜間カテーテルが抜けた時介護職員が挿管できない。又車椅子使用時にルートを巻き付けいてしまう可能性がある為要相談とした。インシュリンについては、夜間の低血糖の対応と状態の変化を介護職が観察しなければならないので現在は対応不可である。 ② 医療機関へは、入所のお知らせの時に、地域医療連携室のソーシャルワーカーに情報提供を行っている。 ③ 医療機関からの問い合わせがあった時も在宅酸素、ストーマの方の受け入れが可能でバルーンについては要相談と伝えている。バルーンの方は双葉苑ショートステイより1人入居した。 ④ 在宅酸素とストーマの方の申し込みがあり在宅酸素の方の入居を調整中であつたが入居に至らなかった。
	(エ) 営業活動や情報発信の強化	① 病院、居宅介護支援事業所からの紹介が有り営業先をリスト化し訪問、電話を行った問い合わせがあり結果3件の紹介を受けた。 ① S W O T 分析を行った結果、要介護度の高い利用者の介護は、法人内に複数の事業所があるので選択肢が多いので安心できる。との結果になった。 ② 営業活動は電話を病院や老健をメインに行った。 ③ 情報発信は毎月1回双葉新聞をホームページ上に掲載し、御利用者と職員の苑での生活の様子がわかるように発信した。 ④ 令和7年3月31日現在、双葉苑54名定員の入所待機者は33名である。小倉南区内で定員

		数が類似している他の特養では、50名定員で待機者7名であり効果は出ている。
イ 利用者単価の向上	(ア) 介護度の定期的な見直し	① 4年に1回「要介護度認定結果通知」により要介護度を確認した。 ② 書面は半年に1回作成し、現在御利用者の状態は毎日確認し状態把握に努めた。 ③ 骨折やADL状態のレベル低下が継続する場合は、区分変更申請を行った。ケアマネが常時現場内で御利用者の状態把握を行っており、早期に対応している。
	(イ) 加算の取得	① 加算の取得要件を確認し、自施設の加算状況及び他施設の加算取得状況を調査した。 ② 24年度改定で新設される加算を洗い出を行った。 ③ 取得可能の加算を現在検討中である。
ウ 介護職員等の確保（募集）	(ア) ハローワーク、広告媒体を利用し採用活動	① SWOT分析を行い、高齢者や子育て期間中の方をターゲットに絞り、下記の広告見出しを実行し求人を行ったが、現在も採用に至っていない。 ② 求人広告見出し ・社会福祉法人経営で母体がしっかりしている。 ・職員の定着率は高い。 ・65歳以上の方も応募しやすい求人。 ・子育て応援求人（行事、病気、送迎配慮） ・有休消化を推奨している。 ・社内外研修、介護福祉士資格取得奨学金制度有り。 ・入職後3か月間は先輩職員が親切、丁寧に指導します。 ③ ハローワークや広告媒体利用時に掲載しているが現在も、採用に至っていない。
	(イ) 介護福祉士の優先採用	① 正規職員の募集については、介護福祉士資格を有する者に限定している。給与も経験、本人能力を考慮し、他の介護施設より良心的な設定をしている。労働条件もなるべく求職者の意向に添うように他施設との差別化を図った。 ② ハローワークに募集を出し、現在就業している施設職員又老人部門内の管理者にも声

		かけを行っていが現在も、採用に至っていない。
	(ウ) 業務内容に応じた募集	① 業務分類をおこなった。 ② 直接的業務は介護の知識を必要とした業務であり、間接的業務としては、配茶準備、洗濯、洗濯物たたみ、衣類返却、食事準備、ゴミ集め、配膳下膳、清掃（居室内、ホール、廊下、トイレ内）テーブル消毒、ドライヤーがけ等介護の知識を必要としない業務に分類した。 ③ 間接的業務について、非正規職員の求人募集を行っているが現在も、採用に至っていない。
	(エ) 実習生の受け入れ	① 2月に慶成高等学校から要請が有り、担当の先生と事前に打ち合わせを行う。3月26日（火）～4月4日（木）4日間と6月17日（月）～7月11日（木）19日間受け入れをおこなった。 ② 受け入れ人数は2名である。 ③ 適時、実習生受け入れマニュアルに基づき行っている。

(6) 双葉苑 短期入所生活介護事業所

項 目	具体的な取り組み結果
①新型コロナウイルスが5類感染症になるも、未だ脅威は継続。感染対策を継続しながら、年間利用率70%以上を目指す。 ②職員不足の解消とトップ体制の整備が可能な場合、年間利用率80%を目指す。	① ケアマネージャーと電話等でお話しする機会(2~3回/週)に、こまめに空床情報や活動内容をお伝えすることで、断続的に新規ご利用者を確保できた。 ② 毎月の長期利用者の定期受診に同行し、主治医にご利用者の状態を詳しくお伝え相談することで、ご利用者の健康状態の安定に繋がっている。 ③ 傷病時に速やかに対応(受診)することで、ご利用者の健康状態が増悪することを防げている。 ④ 午前中の日課(脳トレ)や入浴のない日は午後からレクリエーション(運動)を実施し、「楽しい」とのご利用者の声やご家族の安心感が担当するケアマネージャーに伝わり、継続的なご利用と相対的な評価に繋がっている。 ⑤ケアマネージャーとの定期的な連絡(1~2回/月)や毎月の報告書を通じ、活動やサービス内容を詳しくお伝えすることで、同事業所内の他のケアマネージャーより連絡を頂く機会が増えた。 ⑥看護師の協力を頂き、短期利用者の入所前に抗原検査を実施することを続けている。 ⑦年間利用率は、84.6%であった。

(7) 双葉苑 居宅介護支援事業所

項 目	具体的な取り組み結果
ア インフォーマルサービスとの連携	① 町内会議等時に資料等を準備し、介護保険の事で必要があれば説明等出来るように対応を行った。 ② 近所の民生委員を把握し、年度初め交代時などに連絡を行い名刺等にて挨拶をおこなった事で、民生委員が気になった方などの連絡を頂く事が出来るようになった。 ③ 介護保険の更新時には、現在の本人の状態を説明し、必要なサービスが提供できるように支援おこない、受診時にも同行をおこなう事

		で、本人・家族・医師とスムーズに連携が図れるようになっている。
イ 面接技術を向上し、本人・家族との信頼関係を構築	スキルアップ	① 地域包括からの依頼にてケア会議に積極的に参加する事で、各地域包括から依頼があった。 ② 研修は必要に応じて2人で参加したり、自分の知識を深めたり、新しい認識を勉強する事が出来た。
ウ 業務の効率化		①毎月、国保連請求（10日頃）後に先月の書類の確認と不備がないかをお互いに確認するようにしてから、書類整理の効率化が図れるようになった。

(8) 双葉苑ディサービスセンター

項 目		具体的な取り組み結果
ア 利用率 の向上	営業活動及び 情報発信の強 化	① 4月にSWOT分析を行い、強み（外出レク・柔軟な提供時間など）、弱み（利用者増加に伴い送迎及びフロアスタッフが足りない）、コンセプト（外出出来るデイサービス）、アピールポイント（外出・柔軟な時間及び送迎など）を決定した。 ② 営業ツールを作成した。（訪問用は月間レクカレンダー・FAX用・郵送用（FAX用と月間レク） ③ 誕生日会を毎月25日付近で実施している。写真を撮り、写真立てに飾った物をプレゼントしている。 ④ 営業リストを作成したが、訪問営業の時間が取れていない（利用者増加及び徘徊し歩行不安定の方々が入ってこられ、転倒及び他お客様とのトラブル防止の為フロア業務に入ってる。）。代わりにケアマネと会う担当者会議及び電話営業を月30件行っている。また、FAXは50件行っている。 ⑤ 新規は上半期12人獲得・下半期16人獲得 令和5年度年度末平均利用率57.3%→6年度年度末平均利用率69.6%（12.3%増） 令和7年4月現在利用率76.6%（平均23人）で推移している。 ⑥ 行動実績をHPにアップしている。
イ 介護記 録等の電 子化検討	介護記録等の 電子化検討	① 管理者・相談員・看護師・介護職の4名でプロジェクトチームチームを立ちあげ検討を行った。 ② 課題の洗い出し、見える化された業務を直接介護と間接介護に分け、それぞれに応じた人員配置を行った。 ③ 現在、介護記録システム等の導入に向けた検討を行っている。
ウ 資質向 上	介護福祉士資 格者取得の支 援	① 管理者・相談員・介護の3名でプロジェクトチーム立ち上げ、想定される支援内容の洗い出しや職員アンケートを実施した。 ② 介護福祉士手当、勤務時間の配慮などに関する情報伝達を行い、制度を構築した。 国の処遇改善制度を活用し、介護福祉士有資格者を対象に月額10,000円、常勤かつすべての

		勤務時間帯に対応する介護職員を対象に月額5,000円を支給することとした。
		③ 現在、介護福祉士資格保有者は、職員8人中3名である。(37.5%)
		④ 資格取得については、子育て中のスタッフばかりで勉強する時間がとれない。介護福祉士になれば収入増加する事も話してますが現状で満足しているスタッフが殆ど。で意識改革が必要と感じている。

(9) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑

項 目		具体的な取り組み結果
ア 空所時、円滑に入所が出来るよう入所待機者の増 (空所時、円滑に入所を行い、利用平均90%以上にする。)	営業活動の継続	① 他事業所の居宅介護支援事業所をリスト化し、市内の老人保健施設・居宅介護支援事業所への訪問・電話での営業を行った結果、3件問い合わせがあり入居に至った。 ② SWOT分析を行い、戦略を下記のとおり決定した。 ・法人内に複数のサービスを提供できる事業所があり、又 同一敷地内にもGH・小多機があるため、申込者様に対して、単独の特養待機のみではなく、総合的に入居までの、計画のご案内を行っていき、申込を逃さない様に機能向上を図るようサービスを充実させる。 ・機能訓練の募集は引き続き継続する。研修・教育に関しては認知症ケアに拘らずに、機会の確保を引き続き行う ③ 全入居待機者 5名 新規待機者 1名 併設事業所の小多機・同法人内からの紹介があっている。新規入居者に関しては、双葉苑・デイサービスを経由しており今後も引き続き事業所間の連携は図っていく。 ④ 市内の老人保健施設 居宅介護支援事業所(48事業所)へ電話・資料送付を行った結果、反応は無かった。 ⑤ 行事写真等の公表を望まない家族がいるため、SNS実施に関しては調整中である。
	法人内他事業所管理者、相談員との連	① 連携に必要な情報を整理した結果、入居者の紹介先は今年度新規入居3名のうち全員が担当居宅からの紹介があった。待機先は老健1名、在宅2名であった。 ② 相互連携について各事業所と随時連絡を取り合い、連

	携による入居。	携調整を行った結果、1件であった。 ③ 問い合わせがあった時に、「双葉苑・ふたばのその」に、第二希望・第三希望で入れて頂けるよう案内をした結果、1件であった。 ④ デイサービスの利用者が、急に特養入所を希望する場合は、早期の入居対応が難しい時もあるため、法人内のGHや小規模多機能の利用を案内しつつ、入所待機で待っていただき、法人内で獲得できる様に調整を図った。 ⑤ 一つの事業所だけで完結せずに、出来るだけ他事業所を経由して頂くように案内を行った。今年度の利用率は96.3%であった。
イ 苑内での対応できる手段を増やす	医療行為が必要な方の入所 認知症の方の入所	① 医療行為が必要な方の受け入れを行う基準を決定を検討した。 ② 在宅酸素の療法に関しては、ア現在入所している方が状態変化により在宅酸素療法が必要になった場合イ②新規受け入れの場合に関しては要相談とした。利用者の状態がある程度わかっているアの場合に関しては、本人状態により受け入れは可能であるが、イの場合に関しては、本人の状態が見えない所があるので、受け入れに関しては慎重に進めることとした。 ③ 人工肛門 留置バルーンに関しては、抜去したときの、受診リスクや状態管理に関して看護師の負担が大きく入れは難しい状況である。 ④ 人工透析に関しては、受診と管理を継続して行わなければならない、苑と家族の送迎や同行等の受診負担が大きく、他利用者の兼ね合いもあり対応は難しい。 ⑤ 同じ医療行為でも状態の分かっている既入所者と、状態の分からない新規利用者では、受け入れの難しさも異なるため、今後、医療行為に関しては再度検討を重ねている。 ⑥ 現在、特定の医療行為のある利用者の受け入れ相談は無い。 ① 認知症高齢者の日常生活自立度Ⅳ：9名 M：2名が入所している。 Ⅳ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態である。 M：著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身

		体疾患が見られ専門医療を必要とする状態である。 ② 受け入れ基準を明確にした。 下記事象があり、受診等、医療面での支援を行っても改善の見込みが厳しいと入所判定会議で判断される場合は、受け入れは辞退する。 入居後に、アからエまでの事象が出る場合もある場合は、家族、施設、医師と対応を協議しながら、対応の方向性をその都度決めていく。 ア 自傷・他傷（職員・他の入所者に対して暴力・威嚇行為がある。）又その、恐れがある方。 イ 歩行状態が良好で帰宅願望が強度であり、離苑の可能性が極めて高く、苑外での事故等に巻き込まれ易いと判断される方。 ウ 食事拒否・拒薬が強度あり、生命維持のための介護を提供することが出来ない方。 エ 病院入院時に歩けないにも関わらず立ち上がり行為があり、待機先での対応として身体拘束をされている方で、立ち上がり行為が昼夜間問わず頻回であり、転倒のリスクが極めて高い場合。
	職員の資質の向上	① 北九州市社会福祉研修所の web 研修を中心に受講した。 ア とっさの怒り対処法研修、認知症介護実践者研修等、認知症対応だけでなく対人スキルを磨く研修も併せて受講した。 イ 令和7年度も受講する。
ウ 介護職の確保	（ア）求人募集	① SWOT 分析を行い、戦略を下記のとおり決定した。 ・フルパート 160 時間に拘らずに、勤務時間・曜日等融通が利く。 ・有給休暇とは別に年度毎に、リフレッシュ休暇（6 日間）が付与され、更に入職当初から使える。 ・希望休や年休使用に関しても、融通が利くので勤務がしやすい。 ・資格取得を目指している方や、子育て世代の方に対して勤務時間帯で融通が効きやすい。 ・60 歳以上の方や 20 代の幅広い年齢層の方が、安心して働いている事、介護未経験でも働ける職場環境である。 ② 以上をアピールポイントとして、求人を行った。

		ハローワークが主であるが、募集職員の状況を見ながら、パコラ等の広告媒体に掲載している。
	(イ) 短時間雇用の方を早出・遅出に移行	① 短期8時間以下で雇用している方で、シフトを増やすや新たに契約変更して頂ける方を洗い出した。 ② 夜勤シフトを増やすにあたって、他の職員との兼ね合いがあるため夜勤回数調整を行った。 ③ 契約変更して頂ける方に説明の実施、意向を確認した。 ④ 以上の結果、今まで夜勤シフトに入っていない方が概ね周2回のペースで入って頂いている。夜勤専従の方も週当たりの回数を1回増やして頂き、週3回で勤務して頂いている。
	(ウ) 業務内容に応じた募集	①現在の業務を直接ケア業務、間接的業務に仕訳した。 ②間接的業務である、清掃・環境整備は11月に入職された障害者雇用の方に居室の清掃などを行っていて役割分担が出来ている。 ③アクティビティケアの実施・機能訓練としての機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士）で募集中である。 ※アクティビティケア企画は介護主任・ケアマネが主体で現在は対応中。
エ 業務の明確化と役割分担 (業務改善Ⅰ)	(ア) 業務の明確化と、直接介護・間接介護の仕訳及び人員配置	① 介護主任を中心にプロジェクトチームを立ち上げた。 ② 夜間勤務帯（夜勤）早出・遅出の日勤者の出勤前後等一人で対応する時間帯等、複数対応業務ある時の、繁忙時間帯の割り出しを行い、ICT及び介護ロボットを導入するにあたって、どの部分にあれば助かるかの検討を行った。 ③ 業務の中でどの箇所が、職員負担になっているのか、ICTや介護ロボットを入れることで、代替えが可能を検討介護時間の短縮になるのか、介護従事者の負担軽減の効果、人⇒機械が入ることによって、利用者の受け入れ度はどうかの検討を行い、移乗介護に関して負荷の軽減になるものがあればとの意見があった。
オ 介護ロボット、センサー等の導入 (業務改善Ⅱ)	(イ) 介護ロボット、センサー等の導入の検討	④ 機器の選定に関しては使い勝手もあるため現在検討中である。 ⑤ 見守り支援機器（見守りカメラ等）・移乗・移動の介護負担を軽減・サポートする機械の検討 ICTで排泄タイミングを知らせる機器の導入を検討する。操

46

		いタイプであり、完全に防止することは現実的に難しかった。 ④ 利用者・職員問わず、感染症（コロナ・インフルエンザ）罹患者が、発生した場合は、ユニット単位で隔離対応（個室対応）を行い、ユニット間の移動は極力控える。（感染経路を遮断する）。また、厨房職員の罹患防ぐため、玄関先での食事のやり取りを実施、感染対応中は館内に入らない。 ⑤ 感染防止策として、全国的に人の流れの多い、お盆休みや正月等8月末までの間、利用者の家族面会を一時的に制限（緊急、やむを得ない場合を除く）し、感染対策を行っている。 ⑥ 新型コロナワクチンの追加接種を、令和6年11月28日に実施した。
--	--	--

（１０）グループホーム 双葉荘

項 目		具体的な取り組み結果
ア 利用者の獲得ができていない	営業を行なう	① 令和6年度は、以前より関わりの少なかった病院や施設及び既存の営業先へ営業訪問を実施した。 ② その結果、新規の問い合わせや相談の件数が増加傾向にあった。当初9室中5部屋の空室の状況であったが、年度末には9室中8部屋までの入居に至り、現状では残り1部屋の空室状況である。 ③ 年間を通した問い合わせ案件等をまとめ、営業先のツールを作成し来年度に繋げる。
	利用者の体調管理	① 日々、バイタル測定や職員間で情報共有を行い、身体状態を把握し支援を行っている。 ② 身体状態に変化があった際は、看護師に報告し状況に合わせ、往診医師に連絡し対応している。
イ 求人募集と職員の定着	求人募集を行なう	① 6年度は、職員数が常勤換算上必要な職員はいる為、求人募集は行わなかった。 ② 今後、職員状況により、求人募集を行う。
	職員の意識共有を図る	① 毎月、ミーティング及び勉強会を実施した。 ② 定期的に個人面談しメンタルヘルスに取り組むことができている。
ウ 環境整備と業務の見直し	業務改善を行なう	① 業務の手順書の及びマニュアルの見直しを行い、非効率な働き方の軽減を行い、煩雑な業務の抑止や生産性及びサービス質の低下とならないよう取り組むこともできた。

		② また、業務を安全かつ効率的に進めるため、日々の業務改善と動線上の清掃等の環境整備も行っており継続していく。
エ 介護福祉士の資格取得者率の向上	資格取得支援の実施	① 毎月のミーティング時に勉強会や検討会を実施しており、専門性の見直しを行っている。 ② 事業所が行っている資格取得支援や給与目での待遇は周知しており、介護福祉士の資格取得に向け支援していく。

(11) 地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその

項 目		具体的な取り組み結果
ア 年間利用率93%以上の確保	(ア) 利用者獲得のための営業戦略の構築 (イ) 常時待機者を5名以上	① 4月に現在の入居者についての、入居の経緯を調査した。営業先をリスト化し、営業方法を決定した。併せて、チラシを作成した。 ② 営業を行う FAXでの営業を行い、反応の確認を行う。 問い合わせがあった場合には対応し、訪問する。 ③ 退居者数8名、入居者数6名であり、待機者数の確保までに至らなかった。 ④ 年間利用率81.3%
イ 利用者のニーズの把握とケア	ニーズの把握をして日々のケアに活かす	① ニーズが把握出来なかった原因を明らかにし、ニーズが把握できる環境整備を行った。 ② ユニットで共有し会議で全体に共有した。 ③ 共有したケア内容をユニットで実践した。 ④ ケアの結果の評価を毎月の会議で行い、改善すべき点は改善している。
ウ 介護職員の募集(求人内容の見直し)と定着	(ア) 採用戦略の構築 (イ) ハローワーク、広告媒体を利用し採用活動	① 求人内容の見直しを行った。 ② ハローワーク等を利用し求人の掲載を行った。 ③ 採用活動の評価を行ったが、目標の採用人数には達しなかった。 入職者数 7名、退職者数 2名 異動者数 1名
	(ウ) 離職者0人を目指す。(職員の定着)	① 職員定着のための職員面接に向けて、面接内容を検討し内容を決定した。 ② 日程を決めて職員個人面談を行った。 ③ 面談結果を整理し、職員定着に向けた環境整備を行った。 ④ 結果は退職者2名、異動1名となった。

エ キャリアパス制度継続		① 継続して行った。
オ 介護福祉士資格取得への支援	資格取得支援制度の継続	① 施設の支援制度について、ミーティングで説明を行った。 ② 研修等や研修の際のシフト調整の説明を行った。 ③ 今年度の研修参加希望者はいなかった。

(12) グループホーム ふたばのその

項 目	具体的な取り組み結果	
ア 利用率の向上（88%を目標）	（ア）利用者獲得のための営業戦略の構築 （イ）常時待機者を獲得	① 現在の入居者についての、入居の経緯を調査した。営業先をリスト化し、営業方法を決定した。併せて、営業用パンフレットを作成した。 ② 営業活動を行い、活動の結果の確認を行った。 ③ SNS を使った情報の発信が出来なかった。 ④ 待機者の獲得まではできていない。 入居者数 4名 退居者数 3名 理由⇒医療行為が必要 1名 看取りにてご逝去 2名 ⑤ 年間利用率64.6%
イ 利用者様に応じてケアを決める	ユニット会議を行う	① 毎月のユニット会議を行い、ケア内容を確認した。 ② ケア内容の実践を行い、必要に応じて改善を行った。
イ 求人募集と職員定着	求人募集を行い、反応の確認をする。	① 求人内容を見直し、ハローワークに求人掲載を行う ② 採用活動の評価を行い、ネットにて求人掲載し募集を行った。 ③ 入職者数 4名、退職者数 3名
ウ 介護福祉士資格取得支援	介護福祉士の資格取得支援	① 施設の支援制度について職員に説明を行った。 ② 外部研修を1名が受講した。 ③ 介護福祉士試験の受験をした。

(13) 小規模多機能居宅介護 ふたばのその

項 目	具体的な取り組み結果	
ア 職員スキルアップ	安全・安心な支援が行えるよう、職員への研修システムの構築	① 毎月、第4金曜日にミーティングと併せ、内部研修と事例検討会を開催した。 ② 環境の整備は随時行っている。 ③ 11月～3月にかけて自己評価→事業所評価を実施し、課題評価も行った。

	介護福祉士 資格取得の 向けての取 り組み	① 施設の支援制度について職員に説明を行った。 ② 本年度、1名介護福祉士資格を取得した。
イ 利用者 登録29 名を目指 す。	営業計画の 立案	① 4月から9月まで営業先を決め、営業活動、他事業所へのアプローチを実施した。 ② ホームページを利用して外部発信も行った。 ③ 利用登録者は26名である。
ウ 人員確 保	職員が働き やすい環境 の整備。	① 役割分担を明確にし、業務の効率化を図った。 ② 職員2名退職し欠員が出たが、職員の働きかけや呼びかけにて紹介してもらい2名の職員が入職したことで人員の確保ができた。

(14) 小規模多機能居宅介護 ふたばのみり

項 目		具体的な取り組み結果
ア 職員の スキルア ップ	安全・安心な 支援が行える よう、職員へ の研修システ ムの構築	① 令和6年度は毎月1回のミーティング時に研修会及び事例検討会を実施しており、個々の意識を高める取り組みが出来た。 ② 適宜、環境面の検討を行い、利用者及び職員が安全安心に過ごすことができるようにしている。 ③ 全職員で昨年度の振り返りを実施し、今年度の業務に繋げる事が出来た。 ⑤ 年一回、自己評価を実施していることで、個々で自己分析をする機会を持つことが出来た。
イ 利用者 登録18 名を目指 す。	営業計画の立 案	① 以前までは関わりの少なかった病院等に営業を実施した事で、新規での問い合わせも多数あり登録人数の増数に繋がっている。年間の月平均の登録者人数は15名であり、年間登録者率は83%であった。 ② 既存の営業先へのアプローチも引き続き実施し、問い合わせ等もあり良好な関係性も築くことも出来た。 ③ 新しいパンフレットを作成し、施設の特徴を説明した営業ルールができている ④ 施設内にリハビリテーションが実施できる環境も作り、理学療法士を主に介護士と共に施設内外でアプローチできている
ウ 人員確 保	求人依頼	① 現在、職員数は常勤換算上確保できている野で、求人は行わなかった。
エ 業務の 効率化	業務改善	① 毎月のミーティング時、職員への聴取及び意見を傾聴し業務を検討する機会を設けている。

		② また、迅速な対応が必要な場合、適宜検討会を実施している。
オ サービスの資の向上		① 研修等への参加時、勤務時間の調整ができる体制はできており、本年度は1名の職員が介護福祉士を目指し、実務者研修を受講している。 ② 介護福祉士の資格を取得する意思のある職員がいた場合、制度などの情報の提供ができるよう整備している。 ③ 求人を行う際は、資格欄に介護福祉士と記載して行った。今年度、新入職員は介護福祉士の資格あり者を採用した。

4 理事会・評議員会の開催状況

必要に応じ理事会、評議員会を開催し、理事会主導による堅実な経営を行いました。

理事会開催概要

回数	開催月日	議 案	出決状況
330	R6.05.02	①双葉保育園「冷凍冷蔵庫」のリース契約の締結について ②児童養護施設双葉学園みのり「マイクロバス」の廃車について ※すべて原案通り可決	決議の省略手続き
331	R6.06.07	①令和5年度事業報告及び決算について ②社会福祉充実残額について ③令和6年度第1次補正予算について ④高齢者関係施設正規職員給与規程の改正について ⑤苦情解決第三者委員の選任について ⑥理事候補者の推薦について ⑦評議員会の招集について ※すべて原案通り可決 報告事項 1 裁判の状況について（不当利得返還請求事件（電話利用料等の返還））	理事 5/6名 監事 2/2名
332	R6.06.21	①不当利得返還請求事件の裁判所による和解勧告の取り扱いについて ②評議員候補者の推薦について ③評議員選任・解任委員会の招集について ※すべて原案通り可決。	理事 6/6名 監事 1/2名
333	R6.06.26	①理事長の選定について ※窪田秀樹氏を理事長に選定。	理事 6/6名 監事 2/2名
334	R6.08.02	①双葉学園みのり「車両購入」契約の締結について ②双葉苑「車両購入」契約の締結について ③令和6年度第2次補正予算について ※すべて原案通り可決	決議の省略手続き
335	R6.09.12	①不当利得返還請求事件判決の対処について ②不当利得返還請求事件の控訴に係る弁護士との委任契約の締結について ③福祉医療機構貸付金に係る連帯保証人（制度）の変更に	理事 6/6名 監事 2/2名

		ついて ※すべて原案通り可決 報告事項 1 社会福祉充実残額の訂正について	
336	R6.12.17	①令和6年度第3次補正予算（案）について ② 双葉保育園利用定員の変更について ③児童養護施設等有期契約職員等就業規則の改正について ④双葉学園児童家庭支援センター就業規則の改正について ⑤児童養護施設双葉学園「備品購入」契約の締結について ※すべて原案通り可決 報告事項 1 令和6年度上半期利用状況について 2 令和6年度上半期収支状況について 3 事業計画の進捗状況について 4 裁判（不当利得損害賠償事件）の状況について 5 双葉保育園におけるハラスメント（パワハラ）事案について 6 介護老人福祉施設「双葉苑」利用者死亡における損害賠償請求について 7 福祉医療機構貸付金に係る連帯保証人（制度）の変更取りやめについて	理事 6/6名 監事 1/2名
337	R6.12.23	① 双葉学園みのり地域小規模児童養護施設の開設について ② 双葉学園みのり地域小規模児童養護施設の賃貸契約の締結について ③ 双葉保育園給与規則の改正について ※すべて原案通り可決	決議の省略手続き
338	R7.03.27	①令和6年度第4次補正予算（案）について ②令和7年度事業計画及び資金収支予算（案）について ③育児・介護休業規則の改正について ③ 双葉保育園運営規則の改正について ④ 双葉学園及び双葉学園みのりの「電話機リース」契約の締結について ⑥施設長の選任について ※すべて原案通り可決 報告事項 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 ・令和6年度北九州市による一般指導監査の結果について	理事 5/6名 監事 2/2名

		・令和6年度職員の入退職状況について ・裁判の状況について（不当利得返還請求事件）	
		2 予備費の使用について	

評議員会開催概要

回数	開催月日	議 案	出決状況
定時	R6.06.25	①令和5年度事業報告及び決算について ②理事の選任について ※すべて原案通り可決 報告事項 1 令和5年度北九州市による一般指導監査の結果について 2 児童養護施設「双葉学園」の改築について 3 不当利得返還請求事件の裁判所による和解勧告の取り扱いについて	評議員 6 / 7 名

5 行事等の実施状況

行事について、児童は、興味や趣味に合わせて主体的に余暇を過ごすことができるよう、園児は、四季を通じての知性、感性、体力の基礎等を作る。また、高齢者施設の利用者に対して、余暇を満喫してお過ごしいただくために、季節に合わせて多彩な行事を開催する。ことを計画しました。

(1) 児童養護施設 双葉学園

ア 施設（事業所）行事实施状況

月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	花見	桜を見ながら紫川に沿って散策 全児童	紫川河畔公園
	鯉のぼりまつり	校区行事「こいのぼりまつり」に参加 小学生	紫川桜橋周辺
	鮎の放流	地域行事「アユの放流」に参加 小学生	紫川亀年橋
5	食事会	焼肉龍園招待 全児童	焼肉龍園
	バレー大会	北養協主催バレー対抗試合 女子児童	門司体育館
6	野球大会	北養協主催の野球対抗試合 男子児童	門司球場
7	プロ野球観戦	プロ野球観戦 招待 全児童	パイパイドーム
	校区川まつり	紫川の清掃、地域交流 小学生	徳吉中央公園
8	季節行事	花 火 全児童	本園
	季節行事	川 遊 び 全児童	春吉
	訪問コンサート	海 水 浴 全児童	吉母海水浴場
	防災センター見学	災害時 避難訓練の一環 全児童	福岡市
9	食事招待	食事会招待（博多食文化の会） 全児童	グローバルアリーナ
	野球大会	県養協野球大会 男子児童	門司球場
10	バレー大会	県養協加盟施設のバレー大会 女子児童	浅生アリーナ
	山登り体験	山登り体験（ヤマップ） 小学生	平尾台
11	北養協芸能まつり	式典 スポーツ大会 川柳コンクール 全児童	若松市民会館
	菅生児童館まつり	地域行事への参加 小学生	菅生児童館
12	ドッジボール大会	北養協主催ドッジボール対抗試合 小学生	若松体育館
	クリスマス会	クリスマス会 全児童	本園
	餅つき	卒園生、在園生等で餅つきを行う 全児童	本園
1	新年行事	書初め・初売り・初詣 全児童	本園
	どんと焼き（校区）	地域行事への参加 全児童	徳吉中央公園
	食事会	テーブルマナー 全児童	エタンセールカワモト
2	旅立ちを祝う会	一日里親の会主催 高校3年生	クラウンパレス小倉
3	卒園祝い会	卒園、卒業生を祝う会 全児童	本園
	うなぎの放流	地域行事うなぎの放流に参加 小学生	紫川上流

イ その他毎月定例の行事実施状況

行事名	実施内容・参加者等
誕生日会（隔月実施）	誕生日該当児童
災害時、火災退避訓練	消防避難訓練時の児童の避難経路確認及び 消火・救急処置等

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	BBQ・お花見散策	園庭でBBQをして、各ユニットで 徒歩圏内の公園等散策。 児童：全児童 職員：全職員	双葉学園みのり及び徒歩圏内公園等
	美化パトロール	地域の方と清掃活動を通じて交流を図る。 児童：7名 職員：1名	陣山市民センター
	プロ野球招待	ソフトバンク対楽天の試合観戦を行う。 寄贈：福岡県市町村振興協会 児童：5名 職員：1名	MIZUHO ペイペイドーム
5	GWレクリエーション	各ユニット、予算内で目的地やアクティビティを決め、外出の計画を立て外出。 男女6ユニット 各ユニット職員2名	長井浜海水浴場 八木山唐房 太宰府天満宮 海響館 水環境館 ジョイポリス
	北養協バレー交流大会	北養協主催のバレーの大会に参加 主催：北九州市児童養護施設協議会 児童：16名 職員4名	門司体育館
	子ども菜園作り	市民センターにて地域の方と野菜を育てる。 児童：10名 職員：2名	陣山市民センター
	美化パトロール	地域の方と清掃活動を通じて交流を図る。 児童7名 職員：1名	桃園公園周辺
	ちびっ子レクリエーション	北養協が主催する幼児・低学年向けの行事に参加。 主催：北九州市児童養護施設協議会 児童：6名 職員：4名	到津の森

	龍園招待	こどもの日に食事招待に参加。 寄贈：焼肉龍園 児童：全児童 職員：12名	龍園
	プロ野球招待	ソフトバンク対ライオンズの試合観戦を行う。 寄贈：福岡県市町村振興協会 児童：5名 職員：3名	MIZUHO ペイ ペイドーム
6	北養協野球交流大会	北九州市内の児童養護施設が集う野球交流試合に参加。 主催：北九州市児童養護施設協議会 児童：13名 職員：4名	門司球場
	北養協バレー大会	北九州市内の児童養護施設が集うバレーの試合に参加。 主催：北九州市児童養護施設協議会 児童：16名 職員：4名	門司体育館
	プロ野球招待	ソフトバンク対ロッテの試合観戦の招待に参加。 寄贈：福岡県市町村振興協会 児童：5名 職員：2名	MIZUHO ペイ ペイドーム
	美化パトロール	地域の方と清掃活動を通じて交流を図る。 児童：8名 職員2名	陣山市民センター
7	プロ野球招待	ソフトバンクホークス VS オリックスの試合観戦の招待に参加。 寄贈：福岡県市町村振興協会 児童：5名 職員：2名	MIZUHO ペイ ペイドーム
	子ども菜園作り	地域の方と野菜を育てる。 児童：10名 職員2名	陣山市民センター
8	SBI イングリッシュキャンプ	全国の施設の代表が集まり、英会話を通じた活動を実施 児童：5名 職員：1名	飯田橋 レインボービル
	お盆 映画鑑賞	お盆期間中に帰省をしていない児童と買い物・映画鑑賞・外食を兼ねて外出。 児童：18名・職員：4名	直方イオン他
	盆供養	みのり全体で盆供養を実施するもの。 児童：42名 職員：14名	双葉学園みのり 食堂
	バレーボール福岡県	福岡県の児童養護施設が集うバ	若松体育会

	大会	レー大会に出場。 主催：福岡県児童養護施設協議会 児童：11名 職員：4名	
	プロ野球招待	ソフトバンクホークス VS 西武 の試合観戦の招待に参加 寄贈：福岡県遊技業協同組合 児童：8名 職員2名	MIZUHO ペイ ペイドーム
	おかえりんご	卒園生と在園生の交流を図り、繋 がり意識できるようにする。 児童：20名 卒園児：7名 職員：16名	双葉学園みの り・尾倉中学 校
	リーダーキッズ	自主性・主体性を育む教育プロ グラムに参加 主催：JPSA 児童：12名 職員7名	生涯学習総合 センター
9	釣り招待	北部九州真鯛トーナメントに招 待され参加。 主催：(株)シマノ 児童：2名 職員：1名	山口県角島沖
	博多食文化招待	ウクライナ支援の一環として、ウ クライナの子供たちと美味しい ものを食べる。 主催：博多食文化の会 児童：21名 職員：4名	グローバルア リーナ
	美化パトロール	地域の方と清掃活動を通じて交 流を図る。 児童：9名 職員：1名	陣山市民セン ター
	西鉄バス招待	西鉄バスで水族館に行き、水族館 見学。 女子児童：5名 職員：2名	マリンワール ド海の中道
	秋季野球大会	児童養護施設対抗で、野球の試 合。 主催：北九州市児童養護施設協議会 児童：16名 職員：4名	新門司海浜公 園
	こども菜園作り	地域の方と野菜を育てる。 小学生：10名 職員：3名	陣山市民セン ター
10	秋季バレー大会	児童養護施設対抗で、バレーの試 合。 主催：北九州市児童養護施設協議会	麻生アリーナ

		児童：9名 職員：4名	
	ハロウィンイベント	仮装やフェイスイベントなど普段体験できない文化に触れる。 主催：コラボなみらい 児童：40名 職員：15名	双葉学園みのもり
	子ども菜園作り	地域の方と野菜を育てる。 児童：10名 職員3名	陣山市民センター
11	北養協eスポーツ大会	北九州の児童養護施設対抗でeスポーツの試合。 主催：北養協 児童5名 職員1名	若松市民会館
	サッカー観戦	アビスパ対レイソルのサッカーの試合を観戦。 寄贈：福岡県遊技業組合 児童：8名 職員：2名	ベスト電気スタジアム
	美化パトロール	地域の方と清掃活動を通じて交流を図る。 児童：9名 職員：1名	桃園公園周辺
	第72回芸能祭	北九州市内の児童養護施設が集まり川柳コンテストやスピーチコンテストの実施。 主催：北九州市児童養護施設協議会 児童27名 職員：10名	若松市民会館
	マリンワールド招待	福岡銀行より水族館見学の招待があり参加。 主催：福岡銀行 児童：12名 職員：3名	マリンワールド海の中道
12	美化パトロール	地域の方と清掃活動を通じて交流を図る。 児童：7名 職員：1名	陣山市民センター
	クリスマスディナー招待	ライオンズクラブからのクリスマスディナーの招待に参加。 主催：ライオンズクラブ 児童：9名 職員：2名	ステーションホテル小倉
	北養協ドッジボール大会	北九州市内の児童養護施設対抗のドッジボール大会に参加。 児童：10名 職員：9名	若松体育館
	クリスマス会	出し物（ピアノ演奏や各ユニットの出し物）を披露する。	双葉学園みのもり

		全児童 職員：26名	
	餅つき	一日里親さん・卒園児を招待し、 ユニット毎に餅つき体験 児童：42名 職員：18名 卒園児：8名 一日里親：4組	双葉学園みのり
1	初詣	児童、職員で初詣に行き、お正月の風習・文化に触れる。 児童：29名 職員：8名	岡田神社
	小倉城おしるこ招待	小倉城で行われた鏡開きで使 したお餅のお汁粉を試食 主催：小倉城大鏡餅実行委員会 児童：29名 職員：6名	小倉城
	ビンゴ大会	寄付でいただいた品物でビンゴ 大会 児童：26名 職員：11名	双葉学園みのり
	夕食外食	外出先での食事のマナーを学び ながら新年にみんなで食事を楽し む。 児童：27名 職員：6名	カルビッシュ 折尾店
	島村楽器贈呈式	島村楽器よりギターセットの贈 呈とミニコンサートを開催して もらう。 寄贈：島村楽器店 児童：15名 職員：5名	双葉学園みのり
2	旅立ちを祝う会	各施設の卒園児童が祝われる会 主催：1日里親の会 児童：3名 職員：4名	ホテルクラウ ンパレス
	子ども菜園作り	地域の方と野菜を育てる 児童：10名 職員：2名	陣山市民セン ター
	JAIFA テーブルマナー 教室	卒園する高校3年生を対象にテー ブルマナー教室に参加。 主催：JAIFA 児童：3名 職員：1名	千草ホテル
3	美化パトロール	地域の方と地域の清掃活動を通 じて交流を図る。 児童：7名 職員1名	陣山市民セン ター

卒園祝い会	学校関係者、地域の方、一日里親を招いて卒園生・進級学園の児童を祝う会。 児童：33名 職員：12名 来賓：10名	双葉学園のみ
児童・職員お別れ会	卒園児童・退職・異動職員とのお別れの会。 児童：41名 職員：全職員	双葉学園のみ

イ その他毎月定例の行事実施状況

行事名	実施内容・参加者等
茶話会	毎月1回、茶話会を実施し、施設長が児童からの意見を直接聞く機会を設けている。
避難訓練	毎月1回、法令に定められた避難訓練（風水害想定避難も含む）を実施している。
児童自治会	毎月1回、児童の意見表明及び主体的に活動ができるように自治会を実施している。

(3) 児童家庭支援センター

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	おさゆき広場	子育て相談 親子7組（14名）	長行市民センター
5	おさゆき広場	子育て相談 親子6組（13名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子1組（2名）	生涯学習センター
6	おさゆき広場	子育て相談 親子3組（6名）	長行市民センター
	わいわい子育て	発達相談 親子2組（4名）	生涯学習センター
7	おさゆき広場	子育て相談 親子18組（37名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子1組（2名）	生涯学習センター
8	おさゆき広場	子育て相談 親子4組（8名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子2組（4名）	生涯学習センター
9	おさゆき広場	子育て相談 親子7組（15名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子2組（4名）	生涯学習センター
10	おさゆき広場	子育て相談 親子5組（11名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子1組（2名）	生涯学習センター
11	おさゆき広場	子育て相談 親子6組（12名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子2組（4名）	生涯学習センター
12	おさゆき広場	子育て相談 親子14組（30名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子2組（4名）	生涯学習センター
1	おさゆき広場	子育て相談 親子12組（25名）	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子1組（2名）	生涯学習センター

2	おさゆき広場	子育て相談 親子 12 組 (24 名)	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子 2 組 (4 名)	生涯学習センター
3	おさゆき広場	子育て相談 親子 9 組 (20 名)	長行市民センター
	わいわい子育て相談	発達相談 親子 2 組 (4 名)	生涯学習センター

(4) 保育所 双葉保育園

ア 施設(事業所) 行事实施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	入園式・進級式	新入園児 6 名・在園児 51 名と職員	各クラス
5	長行小との交流	全クラス	長行小学校
	児童健康診断	全園児、クラスごとに実施	遊戯室・各クラス
	シルエット劇場	さくら組	リバーウオーク
6	歯科検診	さくら組・ゆり組	遊戯室
7	買い物ごっこ	えんにち祭、クラスごとに実施	遊戯室
	空港見学	さくら組	北九州空港
	おさゆき広場	買い物ごっこ(未就学児)	長行市民センター
9	運動会	以上児・未満児入れ替え制(保護者参加)	長行小体育館
10	児童健康診断	全園児、クラスごとに実施	遊戯室・各クラス
	いもほり	さくら組、さつまいも掘り	田中農園
	お泊まり保育	さくら組、	もりのいえ
	秋の遠足	全クラス	公園
11	七五三神社参拝	さくら組参拝	八旗八幡神社
	生活発表会	全園児(保護者参加)入れ替え制 ビデオ・写真撮影	遊戯室
12	クリスマス会	全園児対象で行う	遊戯室
1	卒園写真撮影	さくら組写真撮影	遊戯室
2	社会見学	さくら組	いのちのたび 博物館
3	ひなまつり	全園児、クラスごとに実施	各クラス
	さよならの会	お別れ会・各クラスが順番で遊戯室のさくら組の所へ行く	遊戯室
	卒園式	15 名卒園、卒園児と保護者のみ	遊戯室
	修了式	写真撮影、クラスごとに実施	遊戯室
	児童館見学	さくら組	菅生児童館

イ その他毎月定例の行事实施状況

行事名	実施内容・参加者等
誕生会	全クラス 冠を渡したり、インタビューしたりしてお祝いする。
退避訓練	3・4・5 歳児クラス(にわとり組)

(5) 介護老人福祉施設 双葉苑

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	桜見	山の塔のベランダから双葉苑駐車場に咲いている満開の桜を見学する。 入所者 10 名参加	山の塔
5			
6	運動会	大玉運び、障害物競走、玉入れ、大縄跳びの競技を行う。 入所者 50 名、ショート 13 名参加	大ホール・居室
7			
8			
9			
10	ハロウィン	仮装コンテスト、マシュマロキャッチゲーム、ダンス、歌謡ショー。 入所者 45 名、ショート 8 名参加	大ホール
11			
12	クリスマス会	クリスマスソング、手品、プレゼント、職員コーラ早飲み、ケーキ、ドリンク。 入所者 33 名、ショート 6 名参加	大ホール
1	正月行事	クイズ、演武、獅子舞、正月遊び。 入所者 43 名、ショート 4 名参加	大ホール
2	節分	職員が鬼に扮し利用者様が豆まき行い無病息災を願う。 入所者 38 名、ショート 5 名参加	大ホール
3	雛祭り	職員がお内裏様、お雛様の格好に扮し入所者様と記念撮影を行う。 入所者 40 名、ショート 4 名参加	大ホール

(6) 双葉苑デイサービスセンター

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	花見	花見ドライブ	田川郡など
5	鯉のぼり鑑賞	鯉のぼりドライブ	板櫃川など
6	菖蒲鑑賞	菖蒲を見る	戸畑区
7	平尾台鑑賞	平尾台ドライブ	平尾台
8	ドライブ	小倉市街ドライブ	小倉北区など
9	敬老会	敬老会を行い、記念品を差し上げる	フロア
10	コスモス鑑賞	コスモスドライブ	遠賀川

11	紅葉鑑賞	紅葉ドライブ	英彦山など
12	クリスマス会	お菓子などを食べカラオケを歌う	フロア
1	新年会	新年会を行う	フロア
2	節分祭	スタッフが鬼になりお客様に紅白玉をぶつけてもらう	フロア
3			

イ その他毎月定例の行事実施状況

行事名	実施内容・参加者等
買い物レク	スーパーなどに買い物に行く
訪問パン	希望の方が売りに来たパンを購入される

(7) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4			
5	外食外出	御家族も参加を促し、おやつ（ジョイフル）にて外食を楽しむ。 入所者3名及びご家族参加、職員4名	ジョイフル 高尾店
6	故郷訪問	入所者のご自宅へ訪問 ご家族との時間を過ごして頂く。 入所者1名 ※職員2名	入所者ご自宅
7	七夕	6月14日～28日まで飾り作り 7日 七夕会	各ユニット
	外食外出	23日 おやつ（ジョイフル）にて外食を楽しむ。 入所者4名参加	ジョイフル 高尾店
8			
9	敬老会	16日開催 白寿・米寿のお祝い ご長寿の方紹介 記念品贈呈・記念撮影	各ユニット
10	外食外出	2日 おやつ（ジョイフル）にて外食を楽しむ。 入所者4名参加	ジョイフル 高尾店
11	外食外出	11日 岩崎様 飛田様 有馬様ご夫妻 おやつ（ジョイフル）にて外食を楽しむ。	ジョイフル 高尾店
12	クリスマス会	クリスマス会 ビンゴゲーム クリスマスソング合唱等	各ユニット
1	正月行事	1日～3日 正月お祝い 挨拶	各ユニット

		かるた遊び 福笑い等	
2	節分行事	3日 豆まき 甘酒の提供	各ユニット
3			

(8) グループホーム双葉荘

ア 施設（事業所）行事实施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	お花見	桜の花を見に行く	志井川近辺
5	母の日	父の日の催しを実施	施設内
6	父の日	母の日の催しを実施	施設内
7	七夕	七夕祭りを実施	施設内
8	夏祭り	夏祭りを実施	施設内
9	敬老会	敬老会を実施	施設内
10	ハロウィン	ハロウィンパーティーを実施	施設内
11	文化祭	施設内の展示物を作成	施設内
12	クリスマス会	クリスマス会を実施	施設内
1	元旦	初詣に行く。	近隣神社
2	節分	節分の催しを実施	施設内
3	ひなまつり	近隣の施設へお雛様見学	近隣公民館

イ その他毎月定例の行事实施状況

行事名	実施内容・参加者等
誕生日会	利用者と施設内にて誕生日会を実施
ドライブレク	車にて外出し四季を感じて頂く

(9) 地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその

施設（事業所）行事实施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	お花見	利用者様	駐車場
5	母の日	利用者様	ユニット
6	父の日	利用者様	ユニット
7	七夕レク	利用者様	ユニット
8	夏祭り	利用者様	ユニット
9	敬老会	利用者様	ユニット
10			
11	秋祭り	利用者様	ユニット
12	クリスマス会	利用者様	ユニット
1	初詣	利用者様	ユニット
2	節分	利用者様	ユニット
3	ひな祭り	利用者様	ユニット

(10) グループホーム ふたばのその

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	花見	利用者様	駐車場
5	母の日	利用者様	ユニット
6	父の日	利用者様	ユニット
7	七夕レク	利用者様	ユニット
8			
9	敬老会	利用者様	ユニット
10			
11	秋祭り	利用者様	ユニット
12	クリスマス会	利用者様	ユニット
1	初詣	利用者様	ユニット
2	節分	利用者様	ユニット
3	ひな祭り	利用者様	ユニット

イ その他毎月定例の行事実施状況

行事名	実施内容・参加者等
誕生日会	利用者様
お楽しみ昼食	利用者様

(11) 小規模多機能型居宅介護 ふたばのその

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	お花見	ドライブ・利用者	苑外
5	端午の節句	ゲーム・利用者	苑内
6	紫陽花会	ドライブ・利用者	苑外
7	七夕	ゲーム・利用者	苑内
8	夏祭り	ゲーム・利用者	苑内
9	お月見	パーティー・利用者	苑内
10	ハロウィンパーティー	ゲーム・利用者	苑内
11	中秋の名月	お団子づくり・利用者	苑内
12	クリスマス会	パーティー・利用者	苑内
1	新年会	初詣・利用者	苑外
2	バレンタインデー	チョコ作り・利用者	苑内
3	ひなまつり	パーティー・利用者	苑内

イ その他毎月定例の行事実施状況

行事名	実施内容・参加者等
お買い物レク	近隣でお買い物実施、利用者
お誕生日会	施設内にて、利用者

(12) 小規模多機能型居宅介護 ふたばのみのり

ア 施設（事業所）行事実施状況

実施月	行事名	実施内容・参加者等	実施場所
4	お花見	桜の花を見に行く	志井河近辺
5	端午の節句	鯉のぼりを見に行く	紫川近辺
6	紫陽花会	紫陽花を見に行く	高塔山
7	七夕	七夕祭りを実施	施設内
8	夏祭り	夏祭りを実施	施設内
9	敬老会	敬老会を実施	施設内
10	ハロウィンパーティー	夏祭りを実施	施設内
11	中秋の名月	お月見イベントを実施	施設内
12	クリスマス会	クリスマス会を実施	施設内
1	新年会	正月の遊び等を実施	施設内
2	バレンタインデー	チョコレート作りを実施	施設内
3	ひなまつり	近隣の施設へお雛様見学	近隣公民館

イ その他毎月定例の行事実施状況

行事名	実施内容・参加者等
誕生日会	利用者と施設内にて誕生日会を実施
ドライブレク	車にて外出し四季を感じて頂く

6 事故及びヒヤリハットの状況

児童、園児、高齢者施設の利用者の事故は、①職員が十分な注意を払っても起きる、いわゆる不可抗力によるもの、②職員らの不注意により生じるもの、③施設自体の欠陥によるものなどがあります。

事故の件数は191件で、5年度は160件でしたので増加しました。主な要因は、児童養護施設の職員に対しての暴言、暴力と言った児童の問題行動(11件増)、高齢者施設の転落・滑落(17件増)などによるものです。

新型コロナウイルス感染症は引き続き減(4年度:104件⇒5年度:25件⇒6年度:17件)となりました。

起きた事故には速やかに対処すること(クライシスマネジメント)はもちろんですが、事故が発生する前にあらかじめいろいろな手立てをうっておくこと、備えておくこと(リスクマネジメント)が重要です。

ハインリッヒの法則やヒューマンエラーを十分に理解し、事故の要因分析を詳細に行い、要因に応じたきめの細かい未然防止の取り組みを行うことが必要です。今後とも、要因分析を行い「リスクマネジメント」の視点で、事故の未然防止に取り組めます。

(1) 事故等の件数

	重大事故(事件) (死亡・重症等)	事故(事件)	ヒヤリハット	5年度事故	4年度事故
児童養護施設 双葉学園		11	2	29	59
児童養護施設 双葉学園みのり	2 (自殺未遂・暴行)	37	42	8	32
保育所 双葉保育園		0	0	4	21
介護老人福祉施設 双葉苑		89	23	42	22
双葉苑ディサービスセンター		4	60	9	14
地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑		21	25	22	12
グループホーム双葉荘		0	16	2	0
地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその		16	0	13	10
グループホームふたばのその		5	2	18	31
小規模多機能型居宅介護 ふたばのその		6	1	10	7
小規模多機能型居宅介護 ふたばのみのり		0	4	3	6
計	2	189	175	160	214

(2) 事故の種別

児童養護施設では、事件と言ってよい、「児童の自殺未遂」や「児童間の暴行」と言った重大事件が発生しています。こどもの権利が著しく侵害された事案として、再発防止に取り組む必要があります。児童の心理的支援の強化や職員の研修

強化、児童の声を尊重する環境づくりなどへ取り組み、職員一丸となって再発防止に努めます

高齢者施設では、転落・滑落（ベッドからの滑り落ち等）が最も多くも23.4％で、重大事故につながる、転倒が19.1％を占めています。両方で42.5％となっています。

転倒する原因としては、建物の構造などの外的な要因と、本人の年齢や運動機能、疾病、内服薬、転倒した経験などの内的な要因があるので、両面からの対策を行います。

施設名 事故の種別	児童養護		保育	高齢者施設								計
	双葉学園	双葉学園のみ	双葉保育園	双葉苑	デイサービスセンター	第二双葉苑	GH双葉荘	ふたのその	GHふたのその	ふたのその	ふたのみのり	
	(定員) 37	(定員) 45	(定員) 90	(定員) 54	(定員) 30	(定員) 29	(定員) 9	(定員) 29	(定員) 18	(定員) 29	(定員) 12	
転 倒				15		4		5	1	2		27
転落・滑落				16		7		8	2			33
骨 折				1		1						2
捻 挫												0
怪 我	2											2
接 触				8								8
誤飲・誤食												0
異 食		1		3								4
誤 嚥				2								2
誤 薬				3		1		2	1			7
服薬忘れ		3		1		3				2		9
薬の紛失												0
皮膚剥離				11		2		1				14
皮下出血				8								8
擦過傷・切傷				5								5
打 撲		1				2				1		4
熱傷・火傷												0
感染症(新型コロナ等)				13	4							17
交通事故		5										5
徘徊				2						1		3
自 傷												0
他 傷												0
脱 臼												0
児童間性暴力												0
無断外出、無断外泊	2	1										3
児童のトラブル・喧嘩		2										2
児童間の不適切行為		1										1
児童の問題行動	5	8										13
備品破損	1	3										4
職員の違法行為・不祥事	1											1
放置・放任												0
対職員暴力												0
その他		14		1		1			1			17
計	11	39	0	89	4	21	0	16	5	6	0	191

7 苦情及び要望の状況

苦情等に適切に対応することは「利用者満足」の視点から重要です。権利擁護の観点からも日常的に児童や園児、利用者及び家族等が自由に意見や苦情、要望等を言える環境づくりを引き続きすすめます。

苦情等については利用者の方が安心して生活していただくためにも、迅速な解決が必要です。引き続き、1週間以内の解決を目指して、対応するよう心がけます。

(1) 苦情等の件数

	苦 情	苦情申立者			要 望	5年度 苦情	4年度 苦情
		児童・ 利用者	家族	その他			
児童養護施設 双葉学園	3			3			
児童養護施設 双葉学園みのり	4		4		1	6	2
保育所 双葉保育園	1		1		1	2	3
介護老人福祉施設 双葉苑						2	1
双葉苑ディサービスセンター							
双葉苑居宅介護支援事業所	1	1			2		1
双葉苑短期入所生活介護事業所							2
地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑						1	1
グループホーム双葉荘							
地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその							
グループホームふたばのその							
小規模多機能型居宅介護 ふたばのその							
小規模多機能型居宅介護 ふたばのみのり					6		
計	9	1	5	3	10	11	10

2 苦情の概要

事業所名 (申出人)	苦情の内容	解決結果
双葉学園・ 沓葉 (隣家)	雨樋の修理 ① 雨樋上部の破損により、大量の雨水が通路に落ちている。 ② 児童に掛かるのではないかと、修理するように。	① 施設整備管理委員会にて修理を行った。 ② 隣家の方には修理の報告及び謝罪をした。 ③ 他人から言われてからではなく、職員が気付き対応するようにと言われた。
双葉学園・ 参葉 (隣家)	騒音他 ① 勝手口から児童や職員の出入りが多い。本来玄関からの出入りではないか ② 勝手口付近で大人2～3人が話しておりうるさい。 ③ 車のドアを閉めるときの音がうるさい。 ④ 職員が大声で話しており、その内容も聞こえ、内容的に良いものではないこともあった。	① 隣家の方から電話を受け謝罪した。その後、自宅へ伺い謝罪した。 ② 参葉職員への苦情であったが、沓葉職員へも内容を話し、気を付けるよう指導した。 ③ 隣家の方から、今後も良好な関係を築いて行きたいと言われた。
双葉学園 (隣家)	騒音 ① 双葉学園改修工事に伴う、解体工事作業時の音がうるさい。	① 施工業者とともに自宅へ行き、工事内容等を説明し謝罪した。 ② 「わかりました」と言われた。
双葉学園 みのり (入所児童の養父)	緊急時の親権者への連絡について ① 児童同士の暴力トラブルにより被害児童が入院対応となった、トラブル当日も親権者である養父に報告の電話を入れていて翌日もまた電話を入れると伝えていた。 ② しかし、翌日の電話が午後になり、養父より「電話を待っていたが、何も連絡がない。」と怒り口調で言われた。	① 養父が被害児童と面会したい希望もあったので急いでいたとのことが分かった。 ② 職員が謝罪を行い、病院にすぐに面会の連絡を取り、養父も面会することができ、安心される。 ③ 緊急時だからこそ親権者への連絡報告は細かく行うべきだった。
双葉学園 みのり (入所児童)	トラブル発生後の対応に関して ① 児童間の暴力トラブルに関して、加害児童の事情聴取が警察で行われた。	① NTT にも発信履歴の確認を依頼したが、出来なかった。 ② 実母への謝罪と子総への報告を行い、内容に関して電話を

の実母)	② その報告の電話を職員が実母の携帯電話にしたが、不在の為、留守番電話に内容を少し残した。 ③ 実母から「メッセージは残っていない。間違った電話番号にかけて、個人情報を漏らしたのではないか？」と言われた。	かける前に上司に相談し、単独での判断をしないように対応方法を確認した。
双葉学園 みのり (入所児童 の実母)	児童のスマホ所持について ① 児童が高校生に進学するにあたり、児童と高校入学前に所持の方向で話を進めていた。 ② 外泊時に児童から所持の話を聞いた実母から「私は所持に反対である。何の連絡も受けていない。どんな風に話が進んでいるのか、分からない。」と苦情が入る。	① 職員が事前に実母に相談しておらず順番が逆になってしまったことを謝罪する。 ② その後親子間で言い合いになるトラブルもあり、子総も介入してもらいながら所持のルール説明や調整を行い、実母も納得し所持の許可が出る事になった。
双葉学園 みのり (入所児童 の実父)	面会後の報告について ① 児童が親権者である実父の許可を得て母方祖父と面会を行ったが、実父は母方祖父とあまり面識がなく、児童が実父の事をいろいろと話すのではないかと言う不安があったので、面会后直ぐに報告が欲しかった。 ② 職員は近日中に外泊が入っており、迎えに来た際に報告しようと考えていた。 ③ 実父より、報告がないとの電話で苦情があった。	① 実父へ、報告が遅れた謝罪をおこなった。 ② 家庭事情も踏まえ、職員間でタイムリーな対応をすることを確認する。
双葉保育園 (1歳児園 児の実母)	園児の迎えの時間について ① 熱が37.5あり担任が電話で保護者に伝えた。迎えは、園児の状態から、通常通り17時でよいと話していた。 ② 父親が迎えに来たが、対応し	① 担任が謝罪し、後日、園長も謝罪した。 ② 職員間の情報の共有が不足していると思われたので、職員の指導を行った。

	た担任以外の保育士から熱があるのに、迎えが遅いと言われた。 ③ 当日、母親から、担任へ苦情があった。	
双葉苑居宅 介護支援事業所 (利用者)	通所サービスを利用したくない ① 自分(利用者)は希望していない。 ② 家族の意向で通所を利用しているという気持ちが強く、本人は行きたくないが通所に行かないといけないと思っている。	① 本人にとって必要な事を説明したが、しぶしぶ納得している為、休む事もある。

8 各種会議の開催状況

職員間の意思統一を図るため、各種会議を行い、業務遂行の為のさまざまな情報の伝達とその確認、問題点の分析や解決策の立案、組織の意志決定等を行っています。

会議は、いろいろな人が組織的に活動して、所定の成果をあげるためにはなくてはならないものです。しかし一方でこの会議が形骸化したり形式的な行事になったりすると、時間や費用などその損失は図り知れないものがあります。会議を効率化し実効性のあるものにするため、会議をする目的や目標を考え実施します。

なお、議事録は会議終了後できるだけ早く作成し、正確に簡潔にまとめます。

(1) 児童養護施設 双葉学園

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
幹部会	① 運営状況の確認 ② 業務内容の確認及びリーダー会議の議題確認 ③ 次月の出張・行事日程等の確認 ④ 施設内の課題解決策の検証 ⑤ 各グループケア・地域小規模施設の課題確認 ⑥ 各委員会の課題確認 など	施設長・各 幹部職員 計5名	第3木曜日 年間12回 実施
リーダー会議	① 業務内容の審議及び課題などの検討 ② 次月の出張及び行事日程の確認 ③ 施設内の課題点の確認及び改善策の検討、子どもの課題の確認 ④ 各グループケア・地域小規模施設の課題の確認 ⑤ 各委員会の課題確認	施設長・各 幹部職員 グループケア・地域小規模リーダー 専門職 計 12名	第4月曜日 年間12回 実施
グループケア・小規模会議	① リーダー会議の議事内容（業務内容・行事日程など）の伝達 ② グループケア・地域小規模の課題の共有、改善策の検討（ケース会議） ③ グループケア・地域小規模内の要望の確認 → 幹部会へ	グループケア・地域小規模構成員	第4水曜日 年間12回 実施
職員会議	① 当月の行事日程の確認 前月の事業内容の振り返り ② 当月の「テーマ」について協議	原則 全職員	第1月曜日 年間12回

	③ 情報の共有 伝達研修 など ※7年度は若年職員研修へ変更予定		実施
ケース会議	① 各グループケア・地域小規模での解決すべき課題についての審議や検討 ② 個別の課題解決策の審議及び対応方針の決定 ③ 施設外の関係機関との連携の検討、対応する窓口の決定	施設長・各幹部職員 グループケア・小規模のリーダー 担当ケアワーカー・専門職	適時開催

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
運営委員会	① 問題点（経営状況）の分析、解決策の検討 ② 職員会議提出議題等の調整 ③ モニタリングの実施 ④ 処遇の質の向上	施設長 課長 係長	毎月 第3木曜日
職員会議	① 行事確認、前月行事反省 ② 情報共有 ③ 当月設定テーマの協議 ④ 前月研修受講者の伝達 ⑤ (OJT 個別ケース検討	全職員	毎月 第1木曜日
リーダー会議	① 各ユニットの気になる児童について分析、解決策の検討 ② ルールの確認 ③ 処遇の質の向上 ④ 学校行事についての情報共有	施設長 課長 係長 ユニットリーダー 心理士	毎月 第3水曜日
ユニット会議	① 問題を抱えた児童への処遇の見直しや処遇の質の向上 ② 行事等の確認 *各ユニット全職員の参加、時には課長・係長も参加	各ユニット 職員 課長 係長	毎月 1回

(3) 保育所 双葉保育園

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
職員会議	① 毎月一回行い、意思の疎通を図る。 ② 研修会、講演会、クラス状況、遊具点検状況報告、事業計画、研修計画の協議を行う。 ③ 園長から、課題、懸案事項の説明。	園長 クラス代表保育士 代表調理員 事務員	毎月1回
集会	① 毎日行い、その日の連絡事項等を共通認識する。 ② 園長や各担任等から、その日の重点項目、注意事項の説明。	園長 クラス代表保育士 代表調理員 事務員	毎日

(4) 介護老人福祉施設 双葉苑（短期入所生活介護事業所等と合同）

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
定例会	① 介護リーダーからのサービスの振り返り心得の確認、職員への伝達（行事予定、委員会の決定事項）	介護リーダー 介護職員 看護職員 介護支援専門員	月1回
グループ会議	① 各グループ単位での介護目標の確認と見直し、サービスの振り返り	グループリーダー 介護職員	各グループ単位毎月1回

(5) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
リーダー会議	① 利用者の状況報告や、連絡事項の伝達、課題についての意見交換、ユニット間の相談などを行っている。	施設長 介護支援専門員 生活相談員 ユニットリーダー 看護師	月1回
運営推進会議	② 事業所の状況報告、施設と地域との要望等の相談	各事業所担当者 高野町内会長 地域包括職員	2ヶ月1回

(6) グループホーム 双葉荘

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
事業者内ミーティング	① 利用者の検討会 各利用者の生活状況の把握、支援内容について。 ② 業務改善について。 ③ 介助方法の検討 ④ レクリエーション内容の検討	管理者 介護支援専門員 介護職員 看護職員	毎月1回

(7) 地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
リーダー専門職会議	① 利用者様・職員等の問題点について解決策を話し合う	施設長 生活相談員 看護師 管理栄養士 リーダー	毎月1回
ユニット会議	① 介護業務を安全かつ効率的に行うために業務の見直しなどを行う	リーダー ユニット職員	毎月1回
給食会議	① 職員から提起された給食献立、行事食の栄養に関する事項の検討を行う。	管理栄養士	毎月1回

(8) グループホーム ふたばのその

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
ユニット会議	① ユニットでの利用者様の健康状態等と業務内容	リーダー ユニット職員	月1回
専門職会議	① 新規利用者様の情報共有。 ② 業務・ケアについての共有	管理者 看護師 介護支援専門員 リーダー	月1回 随時

(9) 小規模多機能型居宅介護 ふたばのその

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
職員ミーティング	① 職員への伝達事項 ② 利用者について	管理者 介護支援専門員 看護師 介護職員	毎月

(10) 小規模多機能型居宅介護 ふたばのみのり

会議名	会議の内容	参加者	開催頻度
事業者内ミーティング	① 利用者の検討会 各利用者の生活状況の把握、 支援内容について。 ② 業務改善について。 ③ 介助方法の検討 ④ レクリエーション内容の検討	管理者 介護支援専門員 介護職員 看護職員	毎月1回

9 各種委員会の活動状況

サービスの質の向上等を目指し、各種委員会活動を行いました。各種の問題点の発生原因の追究や防止策、対処方法について検討し評価を行っています。また、会議結果を踏まえて、職員に求められる有益な情報を整理し全職員に周知しています。

委員会活動は人材を投入し多くの時間をかけて行うものです。言い換えると、活動には多くのコストがかかります。したがって、中途半端な取り組みでは、成果が期待できないばかりか、投入したコストが無駄になります。

このようなことを避けるため、活動目標（目的）や検討期間・スケジュールを明確化し、検討プロセスと内容を組織内で共有化するとともに、改善案の実行までフォローします。

（１）児童養護施設 双葉学園

ア 給食委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6/4/23	① 構成員紹介 組織図の確認 ② 委員会設置運営要領・事業計画確認	11
R6/5/2	① 行事予定確認 ② 衛生管理 ③ 小規模・本園グループ ④ 食事ノートの活用	9
R6/9/2	① 本園改修工事進捗 ② 厨房・食堂改修工事内容について ③ ユニット生活に向けての環境整備 ④ 調理員の配置と業務内容	10
R6/10/1	① 行事予定確認 ② 小規模への食支援検討	8
R6/11/1	① 行事予定確認 ② 小規模への食支援 ③ 厨房における留意点の確認	8

イ 広報委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6/4/22	① 構成員紹介 ② 委員会設置運営要領・事業計画確認	7

R6/4/25	① 役割分担・活用内容の確認 ② ホームページの運用 ③ 広報紙春号発行	6
R7/3/10	① 年間の反省・振り返り ② 広報紙春号発行 ③ SNS ④ 次年度事業計画・予算案	4

ウ 保健衛生管理委員会

実施月日	議 題（テーマ）	出席者数
R6/4/10	① 保健衛生管理委員会の担当者確認 ② 本年度の年間計画の確認 ② 小児科係り付け医の選定、性の健康教育実施状況 ③ 委員会活動：児童の衛生管理・物品管理の担当制	8
R6/7/10	① 年間計画進捗状況 ② 委員会活動：衛生・物品の監査方法 ④ 感染対策：小規模の隔離体制、地域の感染発生状況周知	8

エ 一日里親の会双葉支部

実施月日	議 題（テーマ）	出席者数
R6/4/18	① 一日里親委員会の構成員の確認・自己紹介 ② 北九州市一日里親の会の快速の確認	7
R6/5/9	① 家庭生活体験事業の年間計画について	6
R6/5/29	① 一日母親 職員登録について ② 単身者について ③ マッチングについて	4
R6/6/23	第1回 双葉学園支部会 運営委員会 ① 双葉学園支部 会則の制定について ② 役員の選出について ③ 双葉学園職員の一日子親登録について ④ 令和5年度 双葉学園支部 活動報告について ⑤ 令和6年度 双葉学園支部 活動報告について	12
R6/10/15	① 令和6年度第2回双葉学園支部 運営委員会について ② 令和6年度 クリスマス会について ③ 令和6年度 旅立ちを祝う会について	4

オ 社会貢献委員会

実施月日	議 題 (テーマ)	出席者数
R6/5/23	① 地域行事について ② ボランティア受入れについて ③ ボランティア連絡について ④ コーディネーター研修について	5
R6/9/18	① 地域行事「風船バレー」について	5
R6/3/15	① 令和6年度 年間反省について ② 令和7年度 事業計画について	6

カ 行事委員会

実施月日	議 題 (テーマ)	出席者数
R6/4/6	① 行事委員会構成員紹介 ④ 令和6年度 双葉学園行事計画について ⑤ 双友会と行事委員会の関わりについて ⑥ 令和6年度 行事内容について ⑤ 北養協 児童行事委員会の内容について	8
R6/6/11	① 前期の行事内容について ② 今後の招待行事について ③ 各種委員会との連携について ④ 行事計画書・事業報告書	4
R6/8/10	① 8・9月の学園、招待行事について ② 衣類の購入について ③ 各行事における日程調整 ④ 家庭生活体験事業・一般事業について	4
R6/10/28	① クリスマス会について ② 年末年始行事について	4
R6/12/10	① クリスマス会について ② 年末年始行事について	4
R6/2/16	① 年末年始行事について ② 卒園祝い会について ② 次年度の行事計画について	4

キ 施設設備委員会

実施月日	議 題 (テーマ)	出席者数
R6/4/7	① 施設整備委員会の構成員の紹介 ② 令和6年度 助成金申請について ③ 双葉学園改修工事について	8

R6/6/14	① 合同消防訓練について ② ウイルス防止ソフトの購入について ③ 双葉学園改修工事について	6
R6/9/13	① 施設内外設備点検 ② 公用車使用について ③ 本園大規模改修と小規模開設に向けて	6
R7/3/6	① 本年度の事業活動報告 ③ 次年度の予定事業について	6

ク 安全安心委員会

実施月日	議 題（テーマ）	出席者数
R6/7/31	① 前回委員会協議に基づいた措置結果報告 ② 暴力・虐待・困っていること等に対する聴き取り結果 ③ 新規措置児童・児童処遇事例について	11
R7/1/17	① 前回委員会協議に基づいた措置結果報告 ② 暴力・虐待・困っていること等に対する聴き取り結果 ③ 新規措置児童・児童処遇事例について	10

ケ 入退所検討委員会

実施月日	議 題（テーマ）	出席者数
R6/8/10	中1男児の入所について	6
R6/9/2	年中女児の入所について	6
R6/12/27	中1男児の入所について	6

コ ケース会議

実施月日	議 題（テーマ）	出席者数
R6/6/13	中3女児の対応について	4
R6/6/14	高2女児の対応について	4
R6/8/1	中3女児の対応について	4
R6/12/3	中3女児の対応について	7
R6/12/3	中3女児の対応について	7
R6/12/3	中3男児の対応について	7
R7/2/14	中3女児の対応について	3

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり

ア 運営委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月18日	5月職員会議の確認、自己申告・自己評価について、職員提案について、助成金の申請について他	5名
5月16日	6月職員会議の確認、職員の装飾品について、ケース記録の書き方について、研修派遣について、三階宿直について他	5名
6月20日	7月職員会議の確認、イングリッシュアメリカについて、人事評価について、地域小規模職員構成について、他	5名
7月18日	職員提案対処方針進捗状況について、人材育成について、夏休みの過ごし方について他	5名
8月22日	9月職員会議の確認、夏休みの状況確認、	5名
9月16日	10月の職員会議確認、監査までの確認、新規採用職員計画について、職員提案関連の実施状況について他	5名
10月17日	11月職員会議の確認、監査取り組みの反省・講評他	4名
11月21日	12月職員会議の確認、地域小規模開設について、年末年始の職員勤務について、年末年始行事について、お年玉について他	5名
12月19日	1月職員会議の確認、冬休みの行事について、地域小規模について他	5名
1月6日	2月職員会議の確認、令和6年度事業計画について、地域小規模開設について他	5名
1月23日	3月職員会議の確認、委員会の見直しについて、地域小規模について他	5名
2月20日	3月の職員会議の確認、委員会の見直しについて、地域小規について他	5名
3月20日	新規職員の勤務・研修について、令和6年度児童数の確認ユニット構成について、バレーボール活動について他	5名

イ 環境衛生委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月30日	BCPの見直し、自転車の保険について、共有スペースの掃除について等	5名
1月20日	令和7年度予算計画について、車両費について、消耗器具について、消防点検費について、医療費（予防費について）等	4名

ウ 給食委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月15日	・栄養士不在の配膳について・児童の手伝いをどうするか ・ユニットの調味料について	5名
5月20日	・栄養ソフトについて調理員と確認	5名
6月6日	・食中毒強化月間 ・今後の予定・行事の確認	6名
7月4日	・夏休みの予定について（行事等） ・使用していない冷凍庫について	6名
9月9日	・11月開始予定の地域小規模の食事について ・監査について ・夏祭り開催の食品出店について	5名
11月22日	・今後の行事について（もちつき・正月料理・クリスマス会について） ・地域小規模の食材について	5名
1月16日	・1月開始の地域小規模について（食材提供について） ・今後の行事について（節分・卒園祝い会・お別れ会）	5名
3月6日	・行事食について ・卒園祝い会とお別れ会の行事食について ・麦茶をユニットで作る事について	4名

エ 社会体験促進委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月4日	行事反省・4月の職員会議提案（夏服購入・GWレクリエーションについて、北養協球技大会について等	7名
5月9日	行事反省、行事予定、6月職員会議提案（七夕）	5名
6月13日	行事反省、行事予定、7月職員会議提案（盆供養、夏休み期間中の外出について、みのり夏祭りについて、おかえりんごについて）等	5名
7月11日	行事反省、行事予定、夏休み期間中の行事確認	6名
8月20日	行事反省、行事予定、9月職員会議提案（みのり夏祭り、県養協野球大会）	4名
9月12日	行事反省、行事予定 10月職員会議提案（ハロウィンイベントについて、芸能祭について、Eスポーツについて）等	5名
10月10日	行事反省、行事予定、11月職員会議提案（クリスマスプレゼントについて）等	6名
11月14日	行事反省、行事予定、12月職員会議提案（クリスマス会、	5名

	餅つき、カラオケ、お年玉について）等	
12月12日	行事反省、行事予定、1月職員会議提案は無し令和7年度の予算について等	5名
1月10日	行事反省、行事予定、2月職員会議提案（お別れ会、卒園祝い会）来年度予算について等	4名
2月12日	行事反省、行事予定、3月職員会議提案（3月行事の進捗状況）等	5名
3月13日	行事反省、行事予定	4名

オ 環境衛生委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月20日 ～23日	園全体の衛生チェックン	3名
4月30日	BCPの見直し、共有スペースの掃除について、自転車、公用車の点検について等	5名
5月21日 ～24日	園全体の衛生チェック	3名
6月21日 ～24日	園全体の衛生チェック	3名
7月16日	1回共有スペース・窓の掃除	10名
7月25日 ～26日	園全体の衛生チェック	3名
8月20日 ～27日	園全体の衛生チェック	3名
9月24日	共有スペース・エアコンフィルター掃除	8名
9月25日	園全体の衛生チェック	3名
10月7日	1階共有スペース・窓の掃除	3名
10月22日 ～28日	園全体の衛生チェック	3名
11月22日 ～26日	園全体の衛生チェック	3名
11月21日	共有スペース・エアコンフィルター掃除	15名
11月29日	園庭掃除・溝掃除	12名
12月16日 ～23日	園内年末大掃除	16名

1月20日	令和7年度予算計画について、	4名
-------	----------------	----

カ 調査研修委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6月22日	北養協年間研修予定の参加職員の選出・施設見学の選出	4名

キ 安全安心委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月12日	今年度の方向性の確認	3名
5月8日	双葉学園との合同の実務者会議を実施。聞き取りの流れやフィードバックのタイミングなど確認	8名
6月25日	第一回聞き取り内容の確認と対応について	3名
8月27日	意見箱の回答について	3名
10月3日	聞き取りのリクエスト制についての確認	3名
1月7日	第二回委員会に向けての内容確認	3名
3月23日	今年度の振り返り及び次年度の方針について	2名

ク 支援向上委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月4日	習い事・塾について、学習ボランティア、家庭学習定着について等	5名
5月7日	一日里親事業に関すること、ナイトシアター、漢字検定等	5名
6月4日	自立支援に関する事、おかえりんごについて、数学検定について等	4名
7月2日	自立支援に関する事、夏休みのおやつについて、絵画コンクールについて等	5名
9月4日	夏休み期間中の行事反省、結実企画について等	4名
10月15日	学習タブレットの運用について	4名
1月27日	行事予定について、学習タブレットの運用について、アルバム作成等	4名

（3）双葉保育園

委員会は設置していない。

(4) 介護老人福祉施設 双葉苑（双葉苑短期入所生活介護事業所等と合同）
ア 褥瘡予防委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6・5・30	年間目標、現在の状況、褥瘡予防の為エアマット使用者状況、褥瘡発生防止に対する今後の取り組みについて	6
R6・11・29	年間目標、現在の状況、褥瘡発生ハイリスク者、褥瘡予防の為エアマット使用者状況、褥瘡発生防止に対する今後の取り組みについて	8

イ 安全推進委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6・5・21	職員健康診断、職場内の安全対策、メンタルヘルスケア・ストレスマネジメントの実施について	5
R6・8・19	職員健康診断、職場内の安全対策について	6
R6・11・6	職場内の安全対策について	6
R7・2・3	職場内の安全対策について	6

ウ 事故防止対策委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6・5・30	事故再発防止（3月～5月）・ヒヤリ報告・事故報告	5
R6・8・30	事故再発防止（6月～8月）・ヒヤリ報告・事故報告	5
R6・11・29	事故再発防止（9月～11月）・ヒヤリ報告・事故報告	5
R7・2・28	事故再発防止（12月～2月）・ヒヤリ報告・事故報告	5

エ 身体拘束廃止・虐待防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6・5・21	身体拘束廃止・虐待防止についての取り組み、外部研修への職員参加予定、内部研修、委員会内容について	5
R6・8・19	身体拘束廃止・虐待防止についての取り組み、外部研修への職員参加予定、内部研修、委員会内容について	6
R6・11・6	身体拘束廃止・虐待防止についての取り組み、外部研修への職員参加予定・委員会内容について	6
R7・2・3	身体拘束廃止・虐待防止についての取り組み、外部研修への職員参加予定、内部研修、委員会内容について	6

オ 感染対策委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6・5・30	新型コロナウイルス、感染者、感染対策、食中毒について	6

(5) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑

ア 感染症及び食中毒委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月16日	感染症、食中毒の感染防止について 嘔吐物の処理対応について	9人
7月19日	感染症、食中毒の感染防止について 食中毒注意報について コロナ感染防止の再徹底	9人
10月29日	感染防止について 季節性インフルエンザ感染予防について	9人
1月21日	感染防止について 感染経路について 職員への感染症に対する注意喚起について	9人

イ 事故防止検討委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月16日	事故報告、ヒヤリハット報告 事故防止・事故後の対応について話し合う。	8人
7月19日	事故報告、ヒヤリハット報告 事故防止・事故後の対応について話し合う。	9人
10月29日	事故報告、ヒヤリハット報告 事故防止・事故後の対応について話し合う。 入浴中の転倒事故について	9人
1月21日	事故報告、ヒヤリハット報告 事故防止・事故後の対応について話し合う。 ヒヤリハットと事故の関係性について	9人

ウ 虐待防止・身体拘束適正化委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月16日	虐待、身体拘束への取り組みについて ケアの内容や考え方 ケアの体制の改善	8人
7月19日	高齢者虐待の現状 要因について 虐待防止への取り組み 事例検討	9人
10月29日	高齢者虐待 自身に於ける振り返り ケアの体制を考えていく	9人
1月21日	高齢者虐待の概要と目的 虐待の芽のチェックリストについて	9人

エ 褥瘡委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月16日	褥瘡について 予防対策 ポジショニングについて	8人
7月19日	褥瘡について 褥瘡に繋がる 創傷 皮膚炎について	8人
10月29日	褥瘡について 褥瘡予防対策について	9人
1月21日	褥瘡について 褥瘡予防対策について	9人

(6) グループホーム双葉荘

ア 感染対策委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月25日	BCP ～感染症対策・自然災害対策について～	6名
5月23日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
6月18日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
7月23日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
8月23日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
9月25日	感染症対策 ～コロナウイルス対策～	7名
10月25日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
11月29日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
12月20日	感染症対策 ～O157・ノロウイルス・嘔吐物処理	7名
1月23日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
2月26日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名
3月27日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2名

イ 事故防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月25日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
5月23日	研修：ヒヤリハット・事故報告書・事故再発防止について	7名
6月18日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
7月23日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
8月23日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
9月25日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
10月25日	研修：上半期事故報告・事故再発防止について	8名
11月29日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名

12月20日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	7名
1月23日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
2月26日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2名
3月27日	研修：年間事故報告・事故再発防止	7名

ウ 虐待・身体拘束委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月25日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
5月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
6月18日	研修：虐待・拘束について	6名
7月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
8月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
9月25日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
10月25日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
11月29日	研修：虐待・拘束について	8名
12月20日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
1月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
2月26日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
3月27日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名

（7）地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその

ア 事故防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6.4.22	令和5年度事故報告	7
6.11.25	誤薬事故について	8

イ 身体拘束・虐待防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6.4.15	身体拘束・虐待防止について	8
6.7.12	身体拘束・虐待防止内容について	7
6.10.18	利用者様に対してのアプローチについて（声かけ）	7
7.1.27	身体拘束廃止	8

ウ 感染委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6.6.20	感染について	7

6.8.21	感染症について	7
6.11.20	予防接種について	7
7.2.11	感染について	7

(8) グループホーム ふたばのその

ア 身体拘束・虐待防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6.5.17	身体拘束について	8
6.8.16	虐待について	9
6.11.15	身体拘束・虐待の事例検証	8
7.2.14	スピーチロックの事例検討	9
7.3.14	令和6年度総括	10

イ 事故発生防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6.5.22	事故について	8
6.10.23	ヒヤリハットについて	9

ウ 感染症対策委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
6.5.14	食中毒について	8
6.9.18	感染症について	9

(9) 小規模多機能型居宅介護施設 ふたばのその

ア 事故防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6,5月	介護事故における事故等防止対策について	10
R6,10月	上半期事故報告・介護施設における転倒事故	10
R7,3月	下半期事故報告・移乗時の事故対策について	8

イ 感染症予防委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6,4月	感染症予防対策について・コロナウイルス対策について	9
R6,9月	感染症予防対策について・O157対策について	8
R6,12月	感染症予防対策について・インフルエンザについて	8

ウ 虐待・身体拘束防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
R6,6 月	高齢者虐待防止・身体拘束防止について 事例検討会	9
R6,11 月	高齢者虐待防止・身体拘束防止について 事例検討会	8

(10) 小規模多機能型居宅介護施設 ふたばのみのり

ア 感染対策委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4 月 25 日	BCP ～感染症対策・自然災害対策について～	6 名
5 月 23 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
6 月 18 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
7 月 23 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
8 月 23 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
9 月 25 日	感染症対策 ～コロナウイルス対策～	7 名
10 月 25 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
11 月 29 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
12 月 20 日	感染症対策 ～O157・ノロウイルス・嘔吐物処理	7 名
1 月 23 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
2 月 26 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名
3 月 27 日	感染症対策状況について（施設内ラウンド）	2 名

イ 事故防止委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4 月 25 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
5 月 23 日	研修：ヒヤリハット・事故報告書・事故再発防止について	7 名
6 月 18 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
7 月 23 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
8 月 23 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
9 月 25 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
10 月 25 日	研修：上半期事故報告・事故再発防止について	8 名
11 月 29 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
12 月 20 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	7 名
1 月 23 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
2 月 26 日	ヒヤリハット・事故報告書について（施設内ラウンド）	2 名
3 月 27 日	研修：年間事故報告・事故再発防止	7 名

ウ 虐待・身体拘束委員会

実施月日	議題（テーマ）	出席者数
4月25日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
5月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
6月18日	研修：虐待・拘束について	6名
7月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
8月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
9月25日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
10月25日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
11月29日	研修：虐待・拘束について	8名
12月20日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
1月23日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
2月26日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名
3月27日	施設内での虐待・身体拘束の現状（施設内ラウンド）	2名

10 職員研修の実施状況

人材の育成を主目的として内部研修を実施し外部研修に参加をさせました。

ただ、研修の成果という点では、評価が十分に行われていないため難しい点があります。研修成果を組織として共有するための復命会が十分に行われてなく、個人レベルの情報や知識に終わっている点もあります。

今後も、OJT研修を主体とし、職種別・階層別の多種多様な外部研修に参加させ職員の資質向上を目指します。

また、研修成果を組織全体の成果とするための、復命会の実施や内部研修を中心に開催することで、より多くの職員に研修機会を付与し、基本を身につけ全体の底上げを図ります。

(1) 児童養護施設 双葉学園

ア 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
新規採用職員研修会	4月 9日	理事長、施設長	10名
コンプライアンス研修	4月16日	施設長、ケアワーカー	10名
キャリアパス制度について	5月 1日	施設長	10名
性教育	5月19日	看護師	2名
性教育	5月20日	看護師	7名
性教育	5月25日	看護師	3名
性教育	5月31日	看護師	4名
熱中症対策研修	8月 1日	外部講師	10名
人権啓発研修	8月21日 ～9月5日	アニメーション(DVD)鑑賞	全職員

イ 外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
中堅・上級者研修会	5月16日	北養協研修委員会	4名
県看護師部会研修会	5月21日	福岡県看護師部会	1名
初任者Ⅰ研修会	5月27日	北養協研修委員会	10名
九州地区児童福祉研究大会	6月11～13	九州社会福祉協議会連合会	1名
安全運転協力者研修会	6月22日	北養協研修委員会	2名
県内視察研修会	6月27日	北養協研修委員会	4名
福岡県施設長・職員研修会	7月10日	福岡県児童養護施設協議会	2名
処遇困難事例研究研修会	7月16日	北養協研修委員会	4名
福岡県給食部会研修会	7月17日	福岡県給食部会	1名

初任者Ⅱ研修会	7月19日	北養協研修委員会	4名
コンプライアンス研修会	9月3日	北養協研修委員会	2名
初任者Ⅲ研修会	9月30日	北養協研修委員会	3名
北九州市社会福祉大会	10月22日	北九州市社会福祉協議会	1名
感染症対策研修会	10月26日	福岡県看護師部会	1名
ソーシャルワーカー研修会	11月6日	北養協研修委員会	2名
福岡県給食部会研修会	11月7日	福岡県給食部会	1名
北養協・子総合同研修会	11月11日	北養協研修委員会	2名
発達障害基礎講座研修会	11月12日	北養協研修委員会	2名
福岡県施設長・職員研修会	11月19・20	福岡県児童養護施設協議会	3名
県外視察研修会	11月25・26	福岡県社会福祉協議会	4名
ケアワーカー専門職合同研修	12月6日	福岡県児童養護施設協議会	2名
ケアワーカー部会研修会	11月28日	北養協研修委員会	1名
社会的養護を担う児童養護福祉施設長研修会	12月10～12日	全国児童養護施設協議会	1名

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり

ア 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
新規採用職員研修	4月9日 16日	理事長、業務執行理事 第1課長、家庭支援専門相談員2名、個別対応職員	6名
キャリアパス・コンプライアンス研修	5月22日	施設長	6名
処遇困難児研修	7月2日	キャリアサポートクラブ 理事長 樋口陽子氏	8名
メンタルヘルス研修	10月11日 10月23日	心理療法担当職員	14名
ケース協議研修	10月30日 11月6日	キャリアサポートクラブ 理事長 樋口陽子氏	17名
園内専門職研修	11月26日 11月29日	里親支援専門相談員	14名
虐待防止研修	2月10日	心理療法担当職員	9名
園内専門職研修	3月18日	自立支援担当職員 家庭支援専門相談員	5名

イ 外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
中堅・上級職員研修	5月16日	北養協	4名

看護師部会	5月21日	県養協	1名
初任者研修Ⅰ	5月27日	北養協	6名
給食部会	5月29日	北養協	1名
全国春季セミナー「子どもたちの生活を支える包括的性教育」	6月9日 ～6月10日	“人間と性”教育研究協議会 全国児童養護施設サークル	1名
第71回九州児童養護施設職員研究大会（長崎大会）	6月11日 ～6月13日	九州社会福祉協議会連合 長崎県九社連児童養護施設協議会 児童養護施設協議会	2名
令和6年度社会福祉法人経営者セミナー	6月13日	福岡県社会福祉法人経営者協議会	1名
県内施設視察研修	6月29日	北養協	3名
ケアワーカー部会研修会	7月5日	北養協	4名
養育・権利擁護セミナー	7月10日	全養協	2名
普通救命Ⅲ子供に対する処置	7月10日	北九州市消防局	1名
県養協心理職部会	7月18日	県養協	1名
初任者研修Ⅱ	7月19日	北養協	2名
北九州地区児童養護施設等心理士連絡協議会	7月26日	北九州地区児童養護施設等心理士連絡協議会	1名
コンプライアンス研修	9月3日	北養協	5名
ティーチング研修	9月10日	県社協	1名
ファミリーソーシャルワーク研修	9月10日 ～9月11日	全社協	2名
社会福祉法人経営者セミナー	9月11日	福岡県社会福祉法人経営者協議会	1名
第19回西日本児童養護施設職員セミナー	9月11日 ～9月13日	中国地区・近畿・四国ブロック・九社連児童養護施設協会、第19回西日本児童養護施設職員セミナー山口大会実行委員会	1名
北養協看護師部会	9月12日	北養協	1名
こども応援シェアセミナー	9月20日	ピア活動進学情報シェアチーム	1名
普通救命Ⅲ子供に対する処置	9月20日	北九州市消防局	1名
第63回子どもの虐待防止セミナー	9月26日	社会福祉法人 子どもの虐待防止セミナー	1名
初任者研修Ⅲ	9月30日	北養協	5名
嘉麻学園施設見学	10月2日	双葉学園みのり研修委員	6名

法律研修会	10月5日	北九州市子ども総合センター	1名
サンフラワー京築施設見学	10月8日	双葉学園みのり研修委員	6名
FAW&子総家庭復帰係合同研修	10月16日	北養協	2名
県養協給食部会	10月18日	県養協	1名
田川ふれ愛義塾施設見学	10月25日	双葉学園みのり研修委員会	8名
社会貢献研修会	11月6日 11月13日	北養協	3名
福岡子どもの家施設見学	11月8日	双葉学園みのり研修委員会	8名
県養協心理職部会	11月8日	県養協心理職部会	1名
北養協・子総合同研修	11月11日	北養協 北九州市子ども総合センター	5名
発達障害基礎講座研修会	11月12日	県養協看護師部会	2名
筑後いずみ園施設見学	11月14日	双葉学園みのり研修委員会	8名
県外施設視察研修	11月25日 ～11月26日	北養協	3名
令和6年災害ボランティアセンター設置・運営訓練	12月1日	市社協	1名
令和6年全国研修指導者養成研修	12月4日 ～12月6日	国立武蔵野学院付属人材育成センター	2名
ケアワーカー部会研修	12月6日	北養協	2名
ケアワーカー部会研修会 中堅職員のための職員育成・支援に関する研修会	12月10日	県養協	2名
令和6年度社会的養護を担う児童福祉施設長研修	12月10日 ～12月11日	全養協	1名
第3回社会福祉法人経営者セミナー	12月12日	福岡県社会福祉法人経営者協議会	1名
性教育研修会	1月15日	北養協	5名
管理監督者研修	1月21日 ～1月22日	北養協	4名
令和6年度事業継続計画（BCP）研修	1月24日	県社協	1名
全国若者自立支援プロジェクト九州ブロック会議	1月30日	ゴールドマンサックスギブズコミュニティ支援プ	1名

		ログラム	
北九州地区児童養護施設等心理士連絡協議会	2月14日	北九州地区児童養護施設等心理士連絡協議会	1名
リフレッシュ研修	2月27日	北養協	2名
県養協心理職部会	3月12日	県養協心理職部会	1名

(3) 双葉学園 児童家庭支援センター
外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
九州地区研修会	6月3日	九州地区児童家庭支援センター協議会	2名
全国児童家庭支援実務者研修	7月19日	全国児童家庭支援センター協議会	2名
障害福祉サービス事業所合同説明会	7月27日	北九州市障害福祉サービス協会	3名
全国子ども家庭養育支援地域ネットワークセミナー	9月6日	全国児童家庭支援センター協議会	2名
里親講座	10月28日	北九州市里親会	1名
こども家庭ソーシャルワーク専門職養成研修	11月1日	地域総合子ども家庭支援センターテラ	1名
県養協里親支援専門相談員部会研修	12月5日	福岡県里親支援専門相談員部会	2名
ショートステイ里親研修	2月4日	福岡	1名
こども家庭ソーシャルワーク専門職養成研修	2月5日	地域総合子ども家庭支援センターテラ	1名
家庭訪問型支援研修	3月8日	NPO 法人バディチーム	2名

(4) 保育所 双葉保育園
ア 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
クラス運営について	4/1	園長	11名
気になる子について等	4/26	〃	10名
お買い物ごっこについて	5/15	〃	10名
水あそびについて	6/25	〃	10名
気になる子の過程	6/25	〃	10名
クラスで困っていること	7/18	〃	10名
運動会について	7/25	〃	10名
自己評価について	2月	〃	10名
1年間を振り返って	2月	〃	10名

気になる子のまとめ	3月	〃	10名
-----------	----	---	-----

イ 外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
子どもの言葉を豊かにする研究研修	4/22	北九州市社会福祉研修所	1名
新任保育士研修	5/13、6/18 12/20	北九州市社会福祉研修所	1名
乳児保育研修	5/20.30 6/5.12	北九州市社会福祉研修所	1名
人権講演	6/15	徳力地域交流センター	1名
食事部会	6/20、7/30 2/28	小倉南区保育士会	1名
保健衛生・安全対策研修	6/25 7/1.10	北九州市社会福祉研修所	1名
給食献立伝達研修	7/22、11/8 2/17	子ども家庭局	1名
子育て支援員研修	7/24、10/29 11/13、12/12、2/14	北九州市社会福祉研修所	1名
相談員研修	7/29	北九州市社会福祉研修所	1名
保育士会研修研究大会	9/4	北九州市子ども家庭局	1名
全国保育研究大会	10/17.18	全国保育士会	1名
施設長特別研修会	12/19	北九州市	1名
北九州市保育士研修大会	11/3	北九州市	4名
食育アレルギー研修	1/20.24 1/30	北九州市社会福祉研修所	1名

(5) 介護老人福祉施設 双葉苑

ア 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
身体拘束廃止・虐待防止研修	R6・4・14	介護主任	13名
サービスリスクマネジメント	R6・4・28	介護主任	13名
緊急時の対応について	R6・6・2	看護師2名	13名
ストレスマネジメント	R6・7・21	介護主任	10名
救急対応・AED使用方法	R6・8・18	看護師・介護主任	10名
AED使用方法／心肺蘇生法	R6・10・7	外部講師 A L S O K 田 村和成	13名
AED使用方法／心肺蘇生法	R6・10・9	外部講師 A L S O K 田	10名

		村和成	
AED使用方法／心肺蘇生法	R6・10・11	外部講師 A L S O K 田 村和成	11 名
個人情報保護について	R6・10・27	介護主任	11 名
ハラスメント防止	R6・12・22	介護主任	12 名

イ 外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
認知症介護基礎研修	R6・4・7	(社福) 東北福祉会認知症介護研修、研修仙台センター	1 名
認知症ケアを正しく理解し、認知症の人との関わり方を知る	R6・6・3	(株) エクサホームケア	1 名
介護現場の事故防止～介護現場におけるリスクマネジメント	R6・6・20	特別養護老人ホーム朝老園ひさみつ	1 名
身体拘束廃止の適正化のための指針作成	R6・6・25	北九州市社会福祉研修所	1 名
令和 6 年度ストレスマネジメント研修 (中堅職員コース)	R6・7・19	(社福) 福岡県社会福祉協議会	1 名
高齢者・障害のある人の権利擁護虐待防止等	R6・8・23	福岡県弁護士会北九州部会	1 名
身体拘束廃止研修 A コース	R6・9・25	NPO 全国抑制廃止研究会	1 名
法的視点から見た事故対応	R6・9・26	北九州市社会福祉研修所	1 名
高齢者虐待防止研修 B コース	R6・11・28	団北九州市社会福祉研修所	1 名
[リーダー研修] 指導的立場の従事者に求められる役割	R7・1・14	北九州市社会福祉研修所	1 名

(6) 双葉苑ディサービスセンター 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講 師	出席者数
BCP 研修 (災害・感染症)	4 月	管理者・看護師	全員
高齢者虐待防止	5 月・11 月	管理者	全員
感染症	6 月・12 月	管理者・看護師	全員
身体拘束	7 月	管理者	全員
ハラスメント	8 月	管理者	全員

個人情報保護	9月	管理者	全員
事故防止・再発	2月	管理者	全員

(7) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑

ア 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
窒息発生時の対応	3月19～7日	介護主任・看護師	10名
事故防止研修	5月13・14・16・30日	介護主任	11名
虐待防止・身体拘束適正化研修	5月13・14・16・30日	介護主任	11名
感染症及び食中毒研修	5月13・14・16・30日	看護師	11名
看取りケア研修	7月19日	看護師	9名
BCP研修	9月3・5・6・8・11日	介護主任	12名
ユニットケア研修	9月3・5・6・8・11日	介護主任	12名
ハラスメント対策研修	10月29日	介護主任	15名
介護技術研修	11月7日	介護主任	11名
事故防止研修	11月22・25・29、 12月5日	介護主任	11名
虐待防止・身体拘束適正化研修	11月22・25・29 12月5日	介護主任	11名
感染症及び食中毒研修	11月22・25・29 12月5日	看護師	11名

イ 外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
介護現場の事故防止	6月20日	北九州市社会福祉研修所	1名
介護職員研修	8月22日	北九州市社会福祉研修所	1名
BCP研修	8月26日	介護労働安定センター	2名
とっさの怒りの対処法	9月9日	北九州市社会福祉研修所	1名
高齢者虐待防止研修	11月28日	北九州市社会福祉研修所	1名
認知症介護実践者研修	1月8日～ 2月28日	北九州市福祉事業団	1名

(8) グループホーム 双葉荘

職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
BCP ～感染症・自然災害対策～	4月25日	管理者 感染症対策委員会	6名
ヒヤリハット・事故報告書	5月23日	事故防止委員会	7名

事故再発防止について			
虐待・身体拘束について	6月18日	虐待・身体拘束防止委員会	6名
褥瘡について	7月23日	管理者	7名
BCP ～感染症・自然災害対策～	8月23日	管理者	7名
感染症対策 ～コロナウイルス対策～	9月25日	感染症対策委員会	7名
上半期事故報告・事故再発防止	10月25日	事故防止委員会	8名
虐待/身体拘束・認知症について	11月29日	虐待・身体拘束防止委員会	8名
感染症対策 ～0157・ノロウイルス・嘔吐物処理～	12月20日	感染症対策委員会	7名
接遇/ハラスメント/プライバシー保護	1月23日	管理者	7名
緊急時対応/看取り	2月26日	管理者	7名
年間事故報告・事故再発防止	3月27日	事故防止委員会	7名

(9) 地域密着型介護老人福祉施設 ふたばのその

職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
身体拘束廃止研修	6. 7. 22	生活相談員	17名
事故防止・身体拘束・虐待防止研修 新人研修	6. 10. 20	生活相談員	8名
身体拘束・虐待について	6. 10. 23	生活相談員	16名
虐待防止・定義について	6. 11. 14	生活相談員	16名
高齢者虐待の防止について	7. 2. 10	生活相談員	17名
介護施設におけるリスクマネジメント	6. 5. 22	生活相談員	16名
事故予防について（新人研修）	6. 11. 21	生活相談員	4名
事故防止研修	7. 1. 27	生活相談員	17名
食中毒について	6. 6. 20	看護師	7名
疥癬について	6. 8. 21	看護師	7名
新人研修	6. 11. 5	看護師	7名
インフルエンザ・新型コロナ	6. 11. 20	看護師	7

ナ・ノロウイルスについて			
新人研修	7. 1. 20	看護師	4

(10) グループホーム ふたばのその

職場内研修実施状況

研修名	実施日	講 師	出席者数
新人研修	6. 4. 10	管理者	1 名
虐待防止の指針の確認	6. 4. 23	管理者	6 名
BCP 研修（感染症）	6. 5. 13	管理者	7 名
BCP 研修（災害）	6. 5. 17	管理者	7 名
事故発生の対応（新人研修）	6. 5. 20	管理者	8 名
感染症について	6. 6. 14	看護師	8 名
身体拘束・虐待（新人研修）	6. 6. 14	管理者	1 名
BCP 研修（感染症）	6. 9. 26	管理者	6 名
BCP 研修（災害）	6. 10. 7	管理者	7 名
身体拘束・虐待の内容	6. 10. 18	管理者	7 名
感染症対策・対応	6. 10. 18	看護師	7 名
虐待防止について	6. 10. 25	管理者	7 名
事故を防ぐために	6. 11. 5	管理者	7 名
身体拘束について	7. 1. 17	管理者	6 名
感染症について	7. 2. 14	看護師	6 名

(11) 小規模多機能型居宅介護施設 ふたばのその

ア 職場内研修実施状況

研修名	実施日	講 師	出席者数
感染症予防対策 コロナウイルス対策	4 月	感染症対策委員会	
ヒヤリハット・事故報告書・ 事故再発防止	5 月	事故防止委員会	
虐待・身体拘束防止	6 月	虐待・身体拘束防止委員会	
褥瘡	7 月	感染症対策委員会	
災害時対策	8 月	事故防止委員会	
感染症予防対策 コロナウイルス対策	9 月	感染症対策委員会	
上半期事故件数報告 事故再発防止	10 月	事故防止委員会	
虐待・身体拘束防止 認知症	11 月	虐待・身体拘束防止委員会	

感染症予防対策 0157/ノロウイルス対策/ 嘔吐物処理	12月	感染症対策委員会	
接遇/ハラスメント/ プライバシー保護	1月	虐待・身体拘束防止委員会	
緊急時対策	2月	感染症対策委員会	
年間事故報告・事故再発防止	3月	事故防止委員会	

イ 外部研修・講習会等参加状況

研修名・講習会名	実施日	主催者	出席者数
小規模多機能型居宅介護のケ アマネ向け実践力向上研修	R6年 2月22日	福岡県介護支援専門員 協会	1名

(12) 小規模多機能型居宅介護施設 ふたばのみのり

職場内研修実施状況

研修名	実施日	講師	出席者数
BCP ～感染症・自然災害対策～	4月25日	施設管理者 感染症対策委員会	6名
ヒヤリハット・事故報告書 事故再発防止について	5月23日	事故防止委員会	7名
虐待・身体拘束について	6月18日	虐待・身体拘束防止 委員会	6名
褥瘡について	7月23日	施設管理者	7名
BCP ～感染症・自然災害対策～	8月23日	施設管理者	7名
感染症対策 ～コロナウイルス対策～	9月25日	感染症対策委員会	7名
上半期事故報告・事故再発防止	10月25日	事故防止委員会	8名
虐待/身体拘束・認知症について	11月29日	虐待・身体拘束防止 委員会	8名
感染症対策 ～0157・ノロウイルス・嘔吐物処 理～	12月20日	感染症対策委員会	7名
接遇/ハラスメント/プライバシ ー保護	1月23日	施設管理者	7名
緊急時対応	2月26日	施設管理者	7名
年間事故報告・事故再発防止	3月27日	事故防止委員会	7名

11 施設整備の状況

(1) 児童養護施設 双葉学園

ア 施設整備状況(工事関係) 1件10万円以上

施工月	工 事 名	内 容	施工業者名	金額(千円)
6	改修工事	工事施工	(株)川口建設	160,000
3	改修工事	工事管理	(株)川原建築設計工房	5,390
3	改修工事	工事施工	(株)川口建設	163,950

イ 施設整備状況(備品関係) 1件10万円以上

購入月	品 名	備 考	購 入 先	金額(千円)
4	らくらく献立7 児童福祉施設版	栄養管理ソフト	(株)夢工房	143
4	法面地盤伸縮計	双葉苑と折半	(株)福山コンサルタント	419
10	避難誘導灯 火災報知設備	地域小規模：弐葉用	(株)共電社	541
10	避難誘導灯 火災報知設備	地域小規模：参葉用	(株)共電社	577
10	避難誘導灯 火災報知設備 《追加設置》	地域小規模：弐葉用 ※消防局からの指摘	(株)共電社	29
11	避難誘導灯 火災報知設備 《追加設置》	地域小規模：参葉用 ※消防局からの指摘	(株)共電社	63
3	DELL 14inch ノート PC 5台	児童養護施設マラソン募金の寄贈物品	24時間TV チャリティ委員会	665 (時価相当)
3	理事長室 執務机	改修工事に伴う新設	(株)ワタヌキ	103

(2) 児童養護施設 双葉学園みのり

施設整備状況(備品関係) 1件10万円以上

購入月	品 名	備 考	購入先	金額(千円)
5	栄養管理ソフト		(株)夢工房	143
7	ノートパソコン	148,500円×5台	(株)出雲	742
11	日産キャラバン	JKA助成金対象	北九州日産モーター(株)	3,203
12	Wi-Fi設備一式		NTTファイブス	298
1	TOSHIBA冷蔵庫	地域小規模コスモス	(株)ヤマダ電機	211
1	HITACHIドラム式洗濯機	〃	〃	195
2	イオンバイク電動自転車	24インチ 2台	24時間TV寄贈	239
2	イオンバイク電動自転車	26インチ 2台	24時間TV寄贈	239

(3) 保育所 双葉保育園

ア 施設整備状況(工事関係) 1件 10万円以上

施工月	工事名	内 容	施工業者名	金額(千円)
12/17	排水管	トイレ等の排水管クリーニング	(株) チャイルド	319
3/2	ワックス	園内のワックスがけ	(株) チボリ商事	126
3/30	補修工事	園庭の通路補修工事	(株) TOTO リモデルサービス	138
3/30	防犯カメラ	防犯カメラ等の設置工事	(株) フォーエステック	495

イ 施設整備状況(備品関係) 1件 10万円以上

購入月	品 名	備 考	購入先	金額(千円)
4/12	ノートパソコン	主任用	(株) トウワデンサン	1,526
7/8	ネコアウト	砂場シート	(株) チャイルド	176
9/12	お散歩カー	0歳児用散歩カー	(株) チャイルド	143

(4) 介護老人福祉施設 双葉苑

ア 施設整備状況(工事関係) 1件 10万円以上

施工月	工事名	内 容	施工業者名	金額(千円)
9月	昇降機能維持修理	MELD長寿バッテリー取替	三菱電機ビル	115
10月	自動ドア装置	エンジン装置一式交換	九州オートドア	220

イ 施設整備状況(備品関係) 1件 10万円以上

購入月	品 名	備 考	購入先	金額(千円)
5月	法面伸縮設計置	学園と按分	福山コンサルタント	419
8月	エアコン	事務所	リズ・トーチク	400
11月	パッケージエアコン	2階ショート	九州電気設備工事	1,089

(5) 地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑

施設整備状況(工事関係) 1件 10万円以上

施工月	工事名	内 容	施工業者名	金額(千円)
2月	電気温水器工事	なごみユニット 温水器取り換え	エディオン	658
8月	汚水槽清掃	下水汚水槽・汚泥処分	丸十環境	140